

大学4年生からの U.S.CPA	1	勉強法を工夫して、効率的に合格生	14
山下 佳宏 さん FAR : 1回目、BEC : 3回目 REG : 2回目、AUD : 1回目	..	S.N さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 3回目	..
働きながらコツコツと4年で合格	2	授業を見る前にまずは問題から	15
N.S さん FAR : 3回目、BEC : 3回目 REG : 2回目、AUD : 3回目	..	K.Y さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
諦めずに続ければ合格が見えてくる!	3	TAC と Becker で短期合格!	16
M.U さん FAR : 2回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 2回目	..	小嶋 のぞみ さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
通勤時間で効率的に合格	4	諦めなければ必ず合格できます!!	17
前田 瞳 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..	A.T さん FAR : 2回目、BEC : 3回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
Quality と Quantity を意識して短期合格へ	5	椅子の上にも6年	18
横田 成亮 さん FAR : 2回目、BEC : 2回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..	富永 伸哉 さん FAR : 4回目、BEC : 3回目 REG : 3回目、AUD : 4回目	..
モチベーション管理をしっかりと!	6	継続的な努力が実を結ぶ資格!	19
R.O さん FAR : 1回目、BEC : 2回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..	M.A さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
早く1科目目に合格することがポイント	7	限りある時間を有効に!	20
中山 遼一 さん FAR : 1回目、BEC : 3回目 REG : 3回目、AUD : 4回目	..	R.T さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
Globalization	8	TAC合格体験記は宝の山。自分に合ったやり方を見つけるヒントとなります。	21
今 貴宏 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..	龍野 俊介 さん FAR : 2回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 2回目	..
ゼミを活用してスムーズに合格!	9	まずは、1科目合格から!	22
景山 健 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 1回目	..	T.T さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 1回目	..
学習時間と通勤時間	10	学生だからこそ、目指してみよう!	23
Y.N さん FAR : 1回目、BEC : 2回目 REG : 1回目、AUD : 3回目	..	安彦 鷹哉 さん FAR : 2回目、BEC : 1回目 REG : 3回目、AUD : 4回目	..
皆さんの言うとおりに、諦めないことが一番大事。	11	自分を信じてやり抜く!	24
M.S さん FAR : 1回目、BEC : 2回目 REG : 1回目、AUD : 2回目	..	桑島 さやか さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
一度きりという気持ちで臨みましょう。	12	努力をした分、報われる試験だと思います	25
K.T さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..	Y.K さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	..
USCPA の勉強を通して人生が180度変わりました	13		
森 奈賀子 さん FAR : 4回目、BEC : 4回目 REG : 3回目、AUD : 4回目	..		



大学4年生からの U.S.CPA

山下 佳宏 さん

獨協大学 法学部 2015年卒
勤務先：IT企業

2016年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：85点（2015年4月／1回目）、BEC：82点（2015年11月／3回目）

REG：86点（2015年11月／2回目）、AUD：80点（2016年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学4年次、残された時間を何か有効活用できないか？と考えていた際に、U.S. CPAを知りました。英語と会計は、今後の社会人生活に必ずプラスになるだろうと考え、受講を決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級。
英語知識：TOEIC®TEST 910点、米国留学経験、約1年。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

実績の高いBecker教材を利用している点が、一番の魅力でした。また、自習室が近いため、他社より便利だろうと考えました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

【講師】
TAX担当である内田先生の講義DVD・直対まとめは、非常に中身が濃かったです。
短い時間で多くの知識を分かりやすく叩き込んでくれました。
【教材】
Beckerと提携しているため、パソコンでの演習やスマホでの演習が出来ました。
外出時のスキマ時間もスマホでMC（4択問題）ができるため、効率が良く便利でした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信コースです。
約1年半です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般】
【インプット】
講義DVDを約2倍速で再生しました。（講師によっては1.5~2.5倍速）
同時に、テキストにひたすらTipsを書き残しました。
【アウトプット】
主に、TAC問題集、Becker教材（紙ベース）をそれぞれ、約5、6回転しました。
電子媒体ではなく、紙ベースを用いた理由は、紙に書き込むことができ、視覚的に分かりやすくなるからです。逐一、解いた日付と理解度を表す◎○×を書き込みました。
また、各科目1200問前後のMCが用意されているため、「最後に解いてから何日経過したから、もう覚えてないかもしれない」と、不安になります。これを管理しました。
【学習法】
勉強期間が1年以上に渡りました。必ずモチベーションの波があります。問題を解いていても、英語が頭に入ってこないときがあります。頭が回らないときがあります。
そんなときには、改善策を求めて「脳科学」「勉強方法」をネットで調べました。
そこで、「脳の処理能力を高めるには？」や、「記憶の残し方、エビングハウスの忘却曲線等」を学び、効率の良い受験勉強ができるように、徐々に最適化していきました。

【科目別】

【FAR】
範囲が広いです。アウトプットを増やすことで、記憶に焼き付けるようにしました。たくさん、仕訳を書きました。本番は、公会計の出題割合が多かったと思います。

結果、しっかり事前準備ができ、1発合格できました。

【BEC】
個人的に、WCは各トピックのエッセイが書けるように暗記した方が良いと思います。WCでこのトピックは出ないだろうとヤマをはると、そういう時に限って、覚えていないところが出ます。

また、講義回数・内容が少ないことから、表面的な理解しかできていませんでした。細かいところを覚えてもキリが無いですが、この科目に関しては、ネットで用語の詳細を調べ、Beckerのテキストも補助的に使うべきだったかな、と思いました。

【REG】
Becker実践トレーニング集は解いておりません。その代わり、「TAC問題集」だけを、多めに7周しました。

TAXは、内田先生の仰っている通り、講義を聴きながら「ここで止めて、問題集をここまで解いてください」との指示がある度に、その通りに進めました。その結果、記憶抜けを起こさず、効率よく進めることができました。「TAX直前対策まとめ」冊子は、網羅性・携帯性ともに完璧で、復習で何度も使いました。

【AUD】
「監査論って何だろう？」と、講義を受けるまで中身を何も知らない状態でしたが、知らない世界を学ぶ、新鮮さがありました。Reportを暗記するために、自分の声をスマホで録音し、再生しました。寝る際に、耳だけで勉強ができるため、効率が良くオススメです。（合格体験記を参考にしました。）特に、各ReportはMC、SIMとともに出題トピックの軸となっているため、問われやすいです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

2点、受験手続に関して、米国側の手続ミスがありました。
① 日本受験の追加費用を支払っても、その後、プロメトリックセンターで席の予約ができないシステムトラブル。（英文メールを送り、解決しました）
② NIESを通して学歴審査をした際に、単位認定レポートの「認定単位数の合計値の誤り」がありました。（英文メールを送り、解決しました）

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

① 大学4年次に受講をスタートしましたが、本試験を受け始めたのは、社会人として会社が始まった4月からになってしまいました。
理由は、学歴審査手続・受験要件（米国の単位追加取得）など、本試験を受ける前にやらなければならない手続があったからです。私の場合、法学部卒業見込みだったため、米国の単位として認定される「会計単位・ビジネス単位」も無に等しく、ブラッドリー大学の単位追加取得に時間が想定より長かかってしまいました。「大学卒業見込証明書は、いつ発行可能か？」「受験要件を満たすのにどれくらい時間がかかるか？」「追加単位の認定試験の準備にどれくらい？試験の発表はいつ？」等々、本試験の申込みが遅れる要素があります。
したがって、これらを考慮して計画を進める必要があります。
② 会社が始めると、新社会人の私にとって、勉強時間の確保は困難になりました。毎日残業で終電近くになったからです。その結果、本試験を申し込んだものの、不完全なまま受けることになり、3回落ちてしまいました。仕事との折り合いが難しいところです。
③ 問題を解き続け、立ち止まらなければ、合格は見えてきます。



働きながらコツコツと4年で合格

N.S さん

1980年生まれ

神戸大学 2004年卒業

勤務先：会計コンサルティング会社

2016年2月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：76点（2015年2月／3回目）、BEC：75点（2016年2月／3回目）

REG：83点（2016年1月／2回目）、AUD：76点（2015年5月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会社の異動によりUSGAAPの連結決算業務を担当することになったため、一般的な知識の習得が必要となりました。以前、公認会計士の勉強をしていたこともあり、せっかく勉強するなら資格を取得したいと考えUSCPAに挑戦しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記1級、公認会計士短答式合格

英語知識：TOEIC®TEST 800点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

最初は、他社の講座を受講していましたが、講義内容が自分には合いませんでした。自分には理解中心の講義内容が合うと思い、テキストや講義内容に定評のあるTACへ申し込みました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACは講義回数やテキストのボリュームは他校より少し多いと感じましたが、その分理解が深まり、合格に近づきました。また、テキスト内に問題演習（MC問題）が組み込まれており、実際に問題が解けるかを確認しながら、勉強を進めることが出来た点が良かったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

【通信講座】 TACへ申し込みをして合格まで約4年かかりましたが、実質勉強した期間は1年6ヵ月です。平均勉強時間：平日1時間、休日2～3時間

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

日本の公認会計士の勉強をしていたこともあり、会計・監査の論点についてはあまり苦労しませんでした。ただ、大量の英文を正確に読み書きすることが一番大変でした。特にBECはMCが高得点にもかかわらず、WCがweakerのため2回も不合格になったのだと思います。BECは3回目の受験でぎりぎり75点で合格しましたが、WCを白紙にせず、正確な英文で論点を外さず書いたことが良かったと感じています。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

毎月100時間を超える残業をこなしつつ、勉強を継続して合格することは非常に大変でした。仕事のスケジュール上、勉強時間も確保できず、受験の申し込みをしても試験を受けられないことが多々ありましたが、根性でなんとか最終合格することができました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAはきちんと勉強すれば必ず合格出来る試験です。社会人の方は、勉強と仕事の両立が難しいかもしれませんが、将来自分の選択肢を広げるためにもチャレンジする価値はあると思います。

諦めずに続ければ合格が見えてくる！



M.U さん

勤務先：製造メーカー

2016年1月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：78点（2016年1月／2回目）、BEC：75点（2015年11月／1回目）

REG：79点（2015年10月／2回目）、AUD：79点（2016年1月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

5年前に人事総務担当者として米国の現地法人へ海外赴任する機会をいただきました。

現地では給料計算や個人所得税務を担当していますが、赴任後すぐに一緒に働く同僚や外部会計事務所のU.S.CPAとの米国税法等に対する知識や経験の圧倒的な差を痛感するようになり、彼らと対等に話ができるような基礎知識を身につけたいと強く思い始めました。

英語力も人並みしかなくコミュニケーションにも苦労していたため、英語力の強化と税務会計知識の習得のどちらを優先すべきか迷いましたが、U.S.CPAの勉強を通して英語も少なからず勉強できること、U.S.CPAが会計、税法、内部統制、監査、法務、ITなどの会計を中心とした幅広い領域をカバーしており自分の今後のキャリアアップに有用であること、働きながら取得できる資格であることから、U.S.CPAの試験合格を目指すことにしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級学習経験のみ。
英語知識：TOEIC®TEST 800点相当
コンプライアンス関連資格取得済。また、大学時代に民法や会社法の勉強経験有。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士の友人の多くがTACにて勉強し合格したことを聞いていました。米国在住で情報も限られており、比較して悩む時間も、もったいなかったので迷わずTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

まずテキストの内容が非常に良くまとまっていて効率的に理解を深めることができました。日本語と英語が併記されており、重要項目については日本語で理解すると同時に英語での表現も確認できてよかったです。

講師の方々は熱意があり、説明も非常にわかりやすかったです。ボリュームが多かったため正直なところ心が折れそうになったことも一度ならずありますが、講義の途中の勉強方法のアドバイスや最近の試験の傾向、激励などで気持ちを切り直し、がんばろうという気持ちになりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

海外駐在中のため通信で受講しました。
法学部卒で会計単位が0単位だったので、アラスカ州の必要単位数を取得するためにTACが提携しているブラッドリー大学で15単位を取得しました。TACの教材が手元に届き、最初の1ページをめくってから4科目合格するまで約2年かかりました。

Q6 合格までの学習法（一般的なこと／科目別）

駐在員としての業務はかなり幅広い上に責任も重く、さらに来客対応や出張で時間をとられることもあったため、学習時間の確保とモチベーションの維持には本当に苦労しました。

正直なところ、疲れてほとんど勉強できない日が続き自分がイヤになることもありましたが、そのときは小泉先生の「最終的に合格すればいいんです、少しくらい合格が遅くなったっていいじゃないですか。」という言葉を思い出し、「そうだ、今更勉強できなかった日々を悔やんでも仕方ない。もう一度気持ちを切り替えて最後まで諦めずにがんばろう。」と自分を励まして机に向かいました。

勉強方法は以下の通りです。
(全般)

- 1) 講義視聴。途中から集中力が続く時間内に講義1回分を聞き終わるよう1.5倍速で聞くようにしていました。
- 2) TAC問題集。(実際には時間がとれず、問題集を解かず次回の講義へ進むこともよくありました。)
- 3) 講義の合間に単位認定試験。一通りテキストを読み直しその後できるだけTACの問題集をこなしてから試験に臨みました。単位認定試験に合格しない限り本試験は受けられないので、単位認定試験の前は通常の講義を視聴せず単位認定試験に集中するようにしました。
- 4) 講義を一通り解き終わった後は、Beckerの演習を繰り返し解きました。

仕事との両立は必須で時間も限られていたので最初から高得点で合格するつもりはなく、基本的なことを間違えず確実に得点できるように勉強し

ました。また、とにかくUS CPAは出題範囲が広いので、講師の方々による論点の重要度は常に意識するようにしていました。

Beckerの問題数は多いので、全問を1通り解くのではなく偶数番号の問題を×2回というように、理解したことを確実に定着させるようにしていました。

そして、演習中にわからないことがあれば、必ずTACのノウハウの詰まったオリジナル教材で復習しました。演習ツールもTACのオリジナル問題集、Beckerの演習、直前総まとめ講義など色々ありますが、どのツールであってもTACのテキストのどのページを参照すればよいのか書き込み、わからないことがあるたびにTACのテキストに戻り復習しました。情報の一元化は大事なことだと思います。
(各論)

FAR：講義視聴した後はTACの問題集を解くように心がけていましたが、実際には時間がなくそのまま次の講義を視聴することも多々ありました。結果としてせっかく講義を聞いても復習による知識の定着がないままに次に進んでしまったため、単位認定試験の前に再度テキストを一通り読み直して問題集を一から解きなおすことになりました。やはり講義を聞いたあとはすぐに問題を解き、わからないことがあればテキストのどこを参照すればよいのかを書き込んで、次回以降の復習のスピードアップを図るべきであったと反省しています。

日商簿記2級の学習経験があったので一部は比較的すんなりと頭に入ってきましたが、リースや退職金給付会計、連結決算などは何回勉強しても基本が頭に入らず、何回もテキストを読み直しました。最後まで得意にはなりませんでしたが粘り強く何回も復習したおかげでなんとか合格することができました。

BEC：講義を一通り視聴した後、Beckerを約2周しました。仕事上、CGとITの基礎知識はあったのでMAに一番時間を使いました。WCについてはWC対策&総まとめ講義で演習したのみです。元々学生時代に論文を多く書いていたこともあり、論理的に文章を構成するというところに苦手意識はありませんでした。英語での表現や言い回しはネイティブにならなうわけがないので、自分の身の丈にあった英語を使うこと、短くてもよいので文章の構成だけはしっかりと作ることを意識しました。

REG：学生時代に日本の会社法と民法をしっかり勉強していたのでBLは取り組みやすかったです。また、現在米国駐在中で個人所得税に関わる仕事をしているため、TAXの勉強はモチベーション高く取り組むことができました。従って絶対に1回目で合格するつもりで臨んだREGが不合格だったときはかなりショックを受けました。

TaxについてはBeckerを使わずMC厳選問題集だけを繰り返し解きました。内田先生の直対は非常にコンパクトに良くまとまっており、試験直前まで大活躍しました。BLはAランク論点を中心にメリハリをつけて、間違えた問題を優先順位が高い順から繰り返し解くようにしました。

AUD：講義を一通り視聴した後、Beckerを約2周しました。講義の順番という最後の一つで量も他の科目に比べて少なくモチベーションは維持しやすかったです。「2つまでは絞って入れるけどそのどっちかわからないものが一番多いのがAUDだ」とは聞いていたましたが、確かにその通り、すっきりしない問題が一番多かったのがAUDだったと思います。また、SIMでも何を聞かれているのかわからない問題がありました。未だにあれば自分の勉強不足だったのが、ダミー問題だったのかわかりません。とにかくAUDはわかる問題、できる問題は確実に得点することが合格へのキーになると思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続などはTACの手順に従い総じてスムーズに進みましたが、日本への出張とあわせてプロメトリックセンターでの単位認定試験を申し込んだ時にはフライトが遅れて受験に間に合わず、悔しい思いをしました。

それ以外は特に問題なく、NIESの学歴審査も3週間弱で終わりましたし、NTSは毎回申し込んだ翌日に届きました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

米国駐在中に必ず合格しようと心に決めて試験勉強を始めましたが、最初の頃はついつい気晴らしを理由に旅行に出かけたり、仕事で疲れて何日もテキストを開かなかったりと、集中できない時期が続きました。

途中から気合を入れ直して勉強を始めましたが、今度は勉強が進めば進むほど試験の範囲の広さに打ちのめされ、何回も気持ちが折れそうになりました。私は最終的に2年かかってしまいました。実際のところ仕事をお持ちの方でもよそ見せずに集中して勉強すれば1年で十分に合格できる試験でもあると思います。

しかし、この試験は落とす試験ではなく最低限をクリアすれば誰でも受かることができる試験なので素直な問題が多く、努力が必ず実を結ぶ試験です。今これを読んでいらっしゃる方の中にも、先が見えずに苦しんでいる人がいるかもしれませんが、ただ、時間がかかると諦めずに初志貫徹すること、それが合格するうえで何よりも大切なものではないかと思っています。学習を終えてみると社会の様々な面で勉強したことが活かせることを実感できます。合格後の自分を想像して、ぜひ最後までがんばってください。



通勤時間で効率的に合格

前田 瞳 さん

東京工業大学 卒業
勤務先：メガバンク

2016年1月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：80点（2014年11月／1回目）、BEC：80点（2015年1月／1回目）

REG：80点（2015年10月／1回目）、AUD：84点（2016年1月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

理由は大きく二つあります。一つ目は専門性を身につけたかったことです。当時営業をしていたのですが、財務部門への異動を希望していましたので戦力になるために何か資格をとりたと思っていました。二つ目は、英語力をアピールできる資格を持っていなかったため、それをアピールできる資格がほしかったということです。そこで、U.S.CPAに挑戦しようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語は、テストでいえば、TOEIC®TEST 960点、TOEFL iB® 105点でした。ただ、会話はできるのですが、読み書きが不得意でした。会計は、簿記3級を記念受験したことがある程度で、経験、知識ともにゼロでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

同じ会社の財務部門で仕事をしていた先輩が、TACで学習されていたことや、TACは教材が豊富でサポートが厚いため、短期ではなくマイペースで学習して合格したかった私にはぴったりでした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

（講師）

会計素人の私でも分かりやすい言葉で講義していただきましたので、勉強を忘れさせて楽しく聞いてもらいました。

（教材）

教材の質と量はとてもよかったです。例えば、税法は毎年改定されますが、TACはアップデートレジュメとして常に新しい情報を出してくれていたのが安心感がありました。

（カリキュラム）

Beckerの問題をやれば合格できるという話をよく聞きますが、いきなりBeckerの問題は解けないと思いました。Beckerで問題演習ができるようになるために、TACはオリジナルの講義や教材を用意しており、それが初学者の私にとって受験に必要な知識について一層理解を深められるものでした。

講義、Becker、直前対策は同じように見えますが、受験までに必要な学習のステージがありますので、TACはこの点を考えていますので、カリキュラムがよく練られていると思いました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。FAR 250時間、BEC 125時間、REG 250時間、AUD 125時間、合計750時間でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

主に通勤時間（片道40分）を使って学習しました。通勤時間中に講義はスマートフォンで1.5倍速で視聴し、問題演習はBeckerオンライン演習ソフトを行いました。

（FAR：財務会計）

TACテキスト2周、TAC問題集2周、Beckerオンライン演習ソフトを1周しました。

まず、草野先生が面白くこの講座の価値の大宗を占めます。気がついたら、会計が好きになってました。

仕訳は暗記せず、一つずつ取引の意味を理解しながら習得しました。発生主義会計、現在価値計算についても重点的に練習しました。退職給付、税効果などのイメージが掴み辛い論点は問題集をやることで部分点を狙いました。公会計は、内田先生の直前対策を信

じてこれだけをやりました。IFRSとの違いはテキストにまとめているものをおさえました。

総まとめとして、宮崎先生の直前対策ゼミにも参加し、反射神経を培ったことで、本番で力を発揮することができました。

（BEC：企業経営環境・経営概念）

TACテキスト1周、TAC問題集1周、Beckerオンライン演習ソフトを1周しました。この科目について特に注意したのは、Becker問題集を興味を持ちながら暗記していくということです。自分の仕事に関連づけることで学習しやすくなったと思います。

Written Communication対策は、TOEFL®テストのように、文章の構成を意識して書く練習を行いました。

（REG：諸法規）

TACテキスト2周、TAC問題集2周、Beckerオンライン演習ソフトを1周しました。REGは私にとって一番大変な科目でした。まず、異国の税法には興味がわかない点が非常に厳しかったです。

学習上気をつけたこととしては、出題範囲が浅く広くなっているので、包括的な理解ができるようにテキストを読みました。こうすることで奇をてらった問題にも対応できたと思います。また、米国ビジネス法もこの科目に含まれていて非常に広い範囲で出題されますので、記憶した内容を忘れてしまわないように短期決戦で合格することを意識しました。

（AUD：監査および諸手続き）

TACテキスト1周、TAC問題集1周、Beckerオンライン演習ソフトを1周しました。AUD学習時には、すでに財務部門に異動して財務諸表を作成してしまっていて、実際に監査法人の対応をしていました。このため仕事でこの科目の内容を知っていたので、比較的とっつきやすい科目であったと思います。

学習上特に注意したことは、監査報告書においてスタンダードレポートとレビュー、コンピレーションなどの違いをしっかりとやりました。

なお、英語は4科目の中では一番ハードな部類なので、他の3科目で試験の英語に慣れてからの受験をお勧めします。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験上のトラブルはなかったのですが、私は理系出身ですので、会計0単位、ビジネス0単位の状態でした。アラスカ州の受験資格をクリアするためにひとつずつ単位を取得していくところから始めましたが、事務局の方から必要な単位や取得法についてわかりやすく案内してもらえたので、短期間で受験資格を満たすことができました。

本試験はNASBA（全米州政府会計委員会）を通じて行うので、とまどうこともありますが、TACのマニュアルがありましたので迷わず円滑に手続ができました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

まず、自信をつけ、仕事に余裕ができました。特に、会計に対する理解が深まったため、監査法人とのやりとりがスムーズになりました。また、子会社にはIFRSや米国基準の会社があるので、会計基準の体系だった理解を活用し、コンバージェンスの検討にも役立っています。その他、内部統制の構築、現在価値計算、英文での年次報告書の作成などあらゆるシーンで役立っています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

バックグラウンドに関係なく、会計素人の私でも合格することができましたので、皆様も経歴にとらわれずぜひ挑戦してください。

TACの教材を信用してテキストと問題集を2回転すれば必ず一発合格できます。私はほぼ通勤時間だけで合格することができましたので、時間のない方でも倍速再生等のツールを活用すれば効率的に学習していただけたと思います。



QualityとQuantityを意識して短期合格へ

横田 成亮 さん

1988年生まれ
慶應義塾大学 経済学部 2011年卒業

2016年2月 USCPA試験合格（ニューハンブシャー州）
FAR：84点（2015年8月／2回目）、BEC：77点（2015年8月／2回目）
REG：77点（2016年2月／1回目）、AUD：79点（2016年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

将来的に海外で仕事をするための基礎を固める為に、専門性と語学力を磨きたいと考えていました。そんな中、U.S.CPAという資格を知りました。(1)学生時代に勉強していた会計や経済の知識を更に磨き、グローバルに活躍したいという気持ちが強かったこと、(2)会計知識・税務知識に関する国際的に通用する資格を取得したかったこと、(3)専門知識を英語で勉強することで、ビジネス英語の力を伸ばしたかったこと、(4)自分の市場価値を高めたかったこと、等の理由から受験を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記1級程度
英語知識：TOEIC®TEST 950点程度
実務経験：経営企画部で管理会計を用いた収支分析業務に従事

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

Becker教材を利用したかった為。Beckerは本試験の問題を非常によく分析していて、かつかなり多くの問題数がある為、試験対策としてとても利用価値がありました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材が特に素晴らしかったです。教科書の内容は網羅的でBeckerで不明だった箇所も教科書で詳細に記載があり、非常に助かりました。また、海外で勉強していた為、申し込みや手続きの質問への早急なレスポンスもありがたかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信（1年間）

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

4科目を2グループ（FAR&BECとAUD®）に分けて取り組みました。まずはテキストを読み込み、不明な部分だけDVDを受講しました。テキストの完成度が非常に高い為、テキストの読み込みをお勧めします。テキストを読み込むことで体系的な理解が深まり、無理に暗記することなく、勉強を進められると感じました。ただ、忙しく勉強時間の確保が難しい場合は、DVDを受講してから、講師の方が重要だと指摘した論点から優先的に勉強するのいいと思います。

●学習の基本フロー

- ①テキスト読み込み
- ②テキストで不明な部分のみ、講義受講
- ③TAC問題集を1周
- ④Becker問題集を1周
- ⑤BeckerのSIM問題をPC上で1周
- ⑥直近のAICPAリリース問題を3年分

【Qualityを意識した勉強法】

問題演習も非常に重要だと考えますが、同じ論点でも様々な角度から聞かれる試験だと思うので、テキストを用いた体系的な理解が、結局は短期合格につながるのではないかと考えています。忙しく勉強時間の確保が難しい方は問題演習を最小限にし、講義やテキストによる理解重視の勉強をお勧めします。

【Quantityを意識した勉強法】

高得点を取りたい方や比較的勉強時間が確保でき、不合格のリスクを最小限にしたい方に関しては、問題演習を繰り返す勉強をお勧めします。DVD受講やテキスト読み込みのフェーズで知識が曖昧な部分を、問題を解くことで確認できる為です。また、問題演習を通して様々な用語や言い回しに慣れることができ、解答力が養われると思います。

環境は人それぞれ違うと思うので、忙しく短期で合格を目指す方はQualityを意識した理解重視の勉強を、勉強時間をある程度確保できる方は演習を多くして、解答力を養いながら理解を深めていくとよいのかなと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

大きな混乱もなく学歴審査と受験申込ができました。これを個人で行うのはかなり手間だと思うので、非常に助かりました。本試験は、時間配分に特に注意しました。Simulationの時間を最小限にし、Multiple Choiceにより多くの時間を割きました。Simulationは難解そうに見えて実は基礎的な部分を聞いていることが多いなと感じました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

USCPAは会計、監査、税の知識があると証明できる資格であるので、この資格のおかげで就職口がかなり広がります。また、合格後には英語力もある程度上がる為、英語と会計の知識をアピールすることができます。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

まずTACの教材を信頼すること。そしてTACのサポート体制を活用して効果的な学習をすれば合格は見えてくると思います。限られた準備期間で合格を勝ち取るためには、手を広げすぎず、TACの提供する教材に集中して取り組むことが大切だと思います。なぜなら、そこに合格に必要な全てが詰め込まれているからです。米国公認会計士試験はコツコツ勉強を積み重ねれば社会人であっても短期間で合格可能です。ただし、その努力の方法が間違っている場合は、期待する結果は得られません。自分の勉強方法が間違っていないか、常に検証してください。またその際にはTACの講師に相談してください。TACにはそのサポート体制が整っていると感じました。

私の体験記が、少しでも役に立てばと思います。皆様の合格を心から御祈りしております。



モチベーション管理をしっかりと！

R.O さん

早稲田大学 政治経済学部
勤務先：KPMG Japan

2016年2月 USCPA試験合格（New Hampshire州）
FAR：80点（2015年8月／1回目）、BEC：75点（2015年11月／2回目）
REG：76点（2016年1月／1回目）、AUD：88点（2015年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会計、監査、ビジネス、税務、商法等の企業経営全般について、英語での読み書き、理解、議論ができることを証明できる公的な資格であったためです。海外MBAの取得と比較、考慮しましたが、留学を通じて得られる人的なネットワークの広がりを除けば、ライセンスの取得まで出来るのであれば、USCPAの方が将来に渡り価値があり、魅力的であると思いました。（CPEによる継続的な教育が将来に渡り課せられることから、人的能力に関する品質を認知されやすいこと、バラツキのない一定の水準を図る試験であることが世界的に認知されていること、MBAのように学位ではなく資格であることから名刺にタイトルを入れることが可能であること等が主な理由です。）

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：公認会計士（日本）
英語知識：TOEIC® SCORE 905点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

ボリュームがあり、苦手意識があった税法の講義に定評（内田講師）があることが1番の理由です。また、各科目の直前対策講座（BECKER × TACのコラボレーションは素晴らしい、の一言に尽きます）の充実さが魅力でもありました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

各科目の直前対策講座（BECKER × TACのコラボレーション）
→直前期はこればかり学習していました。論点がコンパクトに纏まっており、かつTBSの対策が充実しています。論点の纏め部分が非常に優れ、他校の直前対策（TBS対策が中心）とは比較にならない位教材の水準が充実しています。

REG（連邦税法）における内田講師の理解重視の講義
→圧巻の一言に尽きます。特に難易度が高いパートナーシップ、コーポレーション及び同種資産の交換に関する理解重視の授業は他校の授業も含め業界最高レベルのQualityの高さだと思います。また、講義とリンクしているClass Noteも相当良く纏まっており、ボロボロになるまで読み込み、試験会場ではとても重宝しました。REGは学習期間が講義時間も含め12月の1日から試験前日の1月5日の30日強しかありませんでした。ですが、本番もTBS含めてある程度の手応えを感じ試験会場を後にすることができました。REGは65%の割合を税法が占めます。いかにボリュームのある税法を早く終わらせ理解重視による記憶の維持をし、残余の時間を効率的にビジネス法に当てられるかが勝負だと思います。そのような環境下において、内田講師がいなければ、私のREGの一月程度での短期合格はありえなかったと強く思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。学習期間は2015年6月下旬から2016年1月上旬の6か月半程度です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

4科目とも共通です。特別なことは一切やっておらず、講義を視聴し、付属の問題集を解き、直前対策テキストの読み込み、直前対策テキストの問題をMC/TBS/WC全て解きました。最後の総仕上げとして受講生サイトに掲載されているAICPAのreleased questionをダウンロードし、時間を計り解きました。一度不合格を体験したBEC以外は現行の試験制度になってからの直近5年分（2011-2015年度分）を全科目解き試験会場に向かいました。BECについては、同様の方針でしたが、一度不合格になってしまいましたので、二回目受験は掲載されている全年度（10年分）を解き試験会場に向かいました。これにより比較的苦手意識があったBECについて、どの受験生よりも自分はAICPAの問題を解きこんだという自分自身の中で強い気持ちを持ったことが何よりも大きかったと思います。なお、季節的繁忙期がある仕事（会計監査業務）をしていた関係で閑散期である下半期の半年間で4科目合格の勝負を決める必要性があったため、模試も含めBECKERには一切手を出していません。タックの教材と過去問（AICPAのreleased question）のみで勝負しました。（しかし、BECKERについて模試だけは解いた方がいいと思いました。（特に最初の1科目だけでも解いた方がいいです。その後は各科目の試験合格を通じ試験環境に慣れていけたので、模試を受けないことが合否には影響ありませんでした。）私がBECについて一度不合格を受けたのは、PC操作等の試験環境に慣れておらず、最初のテストレットで焦りから数問easy missをしたことが大きいと感じています。）高得点は難しいかもしれませんが、試験の合格点を取るという観点においては、TACで与えられている教材で十分ですので、講義を通じ基礎を大事にしながら、丁寧に学習して下さい。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

上述した通り、初めての受験の際には、パソコン操作に慣れるために模試は受けた方がいいです。日本人は紙で受ける試験には強いですが、PC操作で受ける試験にはあまり慣れていないかと思えますので、初回の受験の際には受けるようにして下さい。また、テストレット間の難易度変化ですが、あまり気にしないで良いかなと思います。実際一番の高得点をとれたAUDは3テストレット間での難易度変化は殆ど感じませんでした。あまり過剰に意識しすぎて試験中に動揺することの方が勿体ないです。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPA試験は正直本当に大変な試験です。多くの方が仕事と両立して勉強をすることになるかと思えます。そのような環境下では学習をしない言い訳はいくらでもあり得るかと思えます。どれだけモチベーションを高く保ち、継続できるかが勝負です。毎日少しずつでも30分でもいいので、学習を継続して下さい。私も勉強中の葛藤は少なく、モチベーション管理が本当に大変でした、ですが、合格した今の喜びは葛藤が多く、悩み、苦しんだ分ひとしおです。これを読まれている方の一人でも多くの合格を祈念しております。



早く1科目目に合格することがポイント

中山 遼一 さん

勤務先：建設会社

2016年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：87点（2015年1月／1回目）、BEC：80点（2016年2月／3回目）

REG：82点（2015年11月／3回目）、AUD：82点（2016年1月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと経理の仕事をしていたのですが、米国の支店への転勤がきっかけになり、米国の会計・税務を理解する必要が出てきたことからU.S.CPAへのチャレンジを決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語は、TOEIC®TEST800点程度です。会計は仕事で7年経理をしていたこと、税理士財務諸表論、BATIC®コントローラーレベルでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士の財務諸表論やBATIC®のコントローラーレベルといった資格は、すべてTACで合格しました（笑）。このためTACに安心感があったことからTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

（教材）

教材が英語、日本語併記であったことが助かりました。いきなり英語の教材で勉強するのは厳しかったと思います。

（講師）

内田先生にオーラがあって印象に残りました（笑）。全ての先生方がそうですが、講義の中で論点を解説するだけでなく試験の出題傾向やテスト時の注意事項についてもいろいろと教えていただいたので、本番の試験でも安心して受験できました。

（カリキュラム）

講義を見てTACのテキストで復習することで基礎知識をつける、その後英語に慣れてきたらとところで、仕上げとしてBeckerを使って問題を解くというやり方は私にとって非常に合いました。

TACは、日本語英語併記のテキスト・問題集、Becker、Simulation対策の直前対策教材といった形でレベルに合わせている教材を用意してくれているため、自分に合ったやり方をチョイスできたこととても助かりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。ブラッドリー大学の単位取得も含めると合格まで2年半かかりました。仕事の繁忙期などで勉強できない期間もありましたが、今思うと毎日数時間でもマルチプルチョイス（四択問題）を解いていけば合格はもう少し早くなったのではないかと思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全体的な学習法）

カリキュラムのところでお話した内容と重複してきますが、講義を見て、あとはひたすら問題を解くというやり方をしました。問題はBeckerのみを解きました。Beckerは英語の解説になっています

が、TACの講義を聞いておけばほぼ問題なくこの解説が読めるようになったと思います。

（苦手論点の学習法）

問題演習を行った後の復習のコツですが、小さなノートを科目ごとに用意し、Beckerの練習問題でまちがえた問題で、基本事項だと思うものを英文で書き溜めていました。それを試験直前などにフラッシュカードの要領で何度か復習しました（1ページに1項目にするために、小さなノートを用意しました。持ち運びにも便利です）。

（Beckerソフトの使い方）

Beckerの問題ソフトはとても便利で、できなかった問題については残っていくように設定されていますので、自分がまちがえた問題は後からできるまで解くようにしました。全科目を通じてBeckerは全問解いたわけではなく、各科目ともだいたい全体の70%程度問題を解きました。

また、問題数と時間を設定してランダムに練習ができますので、それも利用していました。本番のテストレットの問題数BEC、REGは24問、AUDは30問に設定し何度も練習をしました。過去の練習の記録も残りますので、できの悪いものを2回、3回と繰り返して解くようにしました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査の結果で出願州を変更しました。もともとワシントン州に出願するつもりだったのですが、学歴審査をかけてみると思った以上に会計、ビジネス単位を学生時代にとっていなかったことが分かり、受験要件の緩いアラスカ州に切り替えました。

また、プロメトリックテストセンターで受験するのは初めてでしたので、入室までの検査の細かさに驚きました。写真撮影や指紋の確認、ポケットを出して何も入っていないことを証明するなどいろいろありました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

特にREGのTAXの講義内容が今まさに役立っています。業務上米国の申告書を見ることがありますので、それがどういった内容であるかが分かるようになりました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPA試験は、科目合格制度で1科目の合格有効期限が18ヶ月になっています。科目を1つでも合格してしまえば、最初に合格した科目の有効期限を意識するようになりますので、残りの3科目の合格に向けて自分の勉強を妥協しなくなると思います。また、とにかく全科目をひととおり受験してしまうことは、どの科目を重点的に勉強しなければならぬかを知るのに有効だと思います。

私の場合、FARに最初合格したことで、残りの3科目について18ヶ月以内に合格しなければならなくなったため強制力が働き、ひたすら勉強するようになりました。

皆さんもまずは最初の1科目を合格することを目標に学習を続けてみてください。



Globalization

今 貴宏 さん

1986年7月生まれ
慶応義塾大学 2009年卒
勤務先：外資系製薬会社

2016年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：93点（2015年10月／1回目）、BEC：82点（2015年11月／1回目）
REG：82点（2016年1月／1回目）、AUD：84点（2016年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の公認会計士試験を合格した後、監査法人勤務をへて現在外資系製薬会社に勤めており、社内にはAccounting, Tax, Controlling問わず比較的優秀な方が多いです。そのような組織の中でグローバルレベルのFinanceの基礎知識を学び、日米両方の会計基準に造詣を深めることで、より高いレベルのアウトプットを会社に提供できると考えたため、USCPA試験にチャレンジしようと思いました。またUSCPAは日本の公認会計士よりも海外での認知度が高く取得する価値があるとも感じていました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：公認会計士
英語知識：TOEIC®TEST 925点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

大学3年時に日本の公認会計士に一発合格した際お世話になり、資格試験に関してはTACに絶対的な信頼を寄せていたためです。ある程度基礎知識がある方向けにBecker30という上級コースも用意しており、かつ各コース費用もリーズナブルでしたので、今回もTACにお世話になろうと思いました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

私はBecker30コースでしたが、直前対策のテキストは情報が集約されていて非常に良かったです。また、カリキュラムも働きながら土日だけでキャッチアップできる丁度良いスピードで進んでいったため、学習のペースがつかみやすかったです。また多数の合格者を輩出しているだけあり、講師陣や教材のコンテンツそのものについても非常に満足できる内容でした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信・約10ヵ月
FAR：4ヵ月、BEC：2ヵ月、REG：3ヵ月、AUD：1ヵ月

Q6 合格までの学習法（一般的なこと／科目別）

一般的なこととして、私からは事前に用意しておくべきもの、学習の大まかな流れについて触れたいと思います。

【事前に用意しておくべきもの】

- 1.5倍速可能なDVDレコーダー ※速度的にREG Tax以外はすべて倍速で聴けます。
- 本番環境を模して学習できる環境 ※デスクトップPCなどアウトプットは紙ではなくBecker onlineを用いることを強くお勧めします。
- 50~80万円くらいの投資額 ※受験料自体が安くはないので
- 約1年間休みの日を含め学習にコミットする覚悟とそれができる環境

【学習の大まかな流れ】

私はInputとOutputを明確に分け、まずは講義を1回転させ、テキストにメモを残していきました。その後、Becker実践トレーニング集、Final exam（模擬試験）、AICPAリリース問題を解きました。直前期はBecker onlineを用いてランダムで問題を解いていきました。

続いて科目別に学習法に触れたいと思います。

【FAR】

一番目に受験した、二番目に難易度の高い科目でした。

Becker実践トレーニング集（1周）、Final exam、AICPAリリース問題3年分を解きました。

本試験では企業会計だけでなく、公会計の分野もかなり問われるため、取捨選択せずに網羅するよう学習しました。一番最初に受験した科目で本試験までのアプローチが定まっておらず、ひたすら図書館で紙ベースの問題集を解きましたが、この科目を受験した後になってBecker onlineを使った方が効率的であることに気が付きました。兎に角、公会計は短期間で学習でき得点源になるた

め、甘く見てはいけない分野です。

【BEC】

二番目に受験した、四番目に難易度の高い科目でした。

Becker online問題集（1周）、Final exam、AICPAリリース問題3年分を解きました。仕事が管理会計関連ということもあり、すんなり知識を吸収できました。ひたすらBecker onlineのMCをこなすというアプローチをしました。WCについても職場で似たようなメールを頻繁に作成しているため、特段準備はせず、とにかくネタ元となるMC問題の知識をしっかりと押さえておくことに集中しました。正直なところWCは長い文章を書くのではなく、端的に要点を短く書いた方が良いと考えていましたので、Beckerの解答例にあるような長い文章はあえて準備しませんでした。

【REG】

三番目に受験した、一番目に難易度の高い科目でした。Becker online問題集（1周）のみ解きましたが、Final exam、AICPAリリース問題に手を付ける余裕はありませんでした。TAXに関してはMCばかり解いていると木を見て森を見ずになり、TBSで得点を取れないリスクがありますので、全体を俯瞰して体系的に抑えるよう意識して学習しました。REGはFARと同程度問題集があり、日本の会計士試験とも関連性が薄く、相当ボリュームが多い科目です。内田講師のレジュメは非常によくまとまっていると好評ですが、私はあえて使わず、自分でMCやTBSを解く過程で自分用のノートを作成しました。理由は、自分で書いた方が覚えが良く、愛着が湧くからです。結果として出来上がったノートは概ね内田先生のノートに近似しておりました。

試験時間が3時間とFARやAUDより短くタイトなので、本番での時間配分や焦ってミスを起こさないように気をつけて解いていきました。案の定、この科目は最後に時間が足りなくなり、最後10分はかなり焦ってしまいましたが最後まで集中して諦めないのが重要だと思います。

【AUD】

四番目に受験した、三番目に難易度の高い科目でした。Becker online問題集（1周）、Final examのみ解きましたが、AICPAリリース問題に手を付ける必要はありませんでした。学習内容としては内部統制など実務に生きる非常に大切な科目ですが、日本の公認会計士をそのまま英訳したような内容でしたので、正直一番学習しやすかったです。DVD閲覧を除くと実質二週間くらいの学習期間でした。インプットは軽めにし、ひたすらMCとTBSを解きまくるというアプローチが最も効率的だと思います。

日本の公認会計士試験の場合ですと、その時々トレンドな論点が考慮されて出題されるのですが、USCPAの場合は浅く広く満遍なく出題されるというイメージですので、高速でテキストを回しているのが良い方法なのではと思います。日本の公認会計士を学習しているからといって、舐めてかかると痛い目に合うと思うので最低限、抑えるところはちゃんとやるべきだと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

NTSが予定より早く届き（2週間くらい）受験スケジュールが若干狂いました。

最後のREGからAUDまでの準備期間が約3週間くらいしか確保できなくなってしまったため、相当詰め込みが必要になりました。事前に受験要件を済ませようとする方は「NTSは思ったより早く届く」ともあるという点に留意して受験手続を進めて頂ければ、私の経験も生きるのかと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

UPCPAはグローバルでの認知度・習得できる専門性が共に高くFinanceの中では非常に価値が高いものでありながら受講料が比較的安いので、投資の採算性が取れる良い資格だと思います。

とはいえ本当に大事なことは資格を取得した後その知識を活かし、仕事を通じて積上げる実績ですから、資格受験期間は圧倒的に短い方が良いです。ですので「いかに効率的に学習を進めるか」という点を常に意識して学習して頂けると良いのではないかと思います。

その点、やはりBeckerなどの教材を使って本番環境に近い形で問題演習を行っていくことが最善なのではと思います。

これから、USCPAを検討されている方も、人生やる時にやることをやった方が良いと思います。ある程度の時間はどうしても必要になりますので、時間が何とか確保できるうちにチャレンジされることをお勧めいたします。

末筆ながら、私の合格体験記に目を通して頂きありがとうございました。私の合格体験記が少しでも今後ご受験される方のお役に立つことができれば光栄です。



ゼミを活用してスムーズに合格！

景山 健 さん

Monterey Institute of International Studies
勤務先：非営利活動法人

2016年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：86点（2015年2月／1回目）、BEC：79点（2015年5月／1回目）

REG：84点（2016年2月／2回目）、AUD：86点（2015年10月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学時代に同級生がUSCPAを学習しているのを見て、いつかは取得したいと思っていたのがきっかけです。社会人になって海外赴任や出張などで学習が中断してしまいましたが、2014年夏から本格的に学習を開始しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

大学院がアメリカでしたので、英語に対する抵抗はなかったのですが、会計の知識は十分ではありませんでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

テキスト・問題集が充実していたところ、そして講師のサポート体制です。受験料も安くない試験であるうえに時間があまりなかったのも、TACのテキストと問題集をこなせば確実に合格できるというのは魅力的でした。また、講師陣との距離も近いことから、受験スケジュール、単位認定試験、受験手続など気軽に相談できることが決め手でした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

USCPA本科生コースを申し込みましたが、各論点が網羅されておりバランスの取れたコースでした。科目ごとに進んで行くコースでしたので、受験スケジュールが立てやすかったです。また、教室フリーパスや5年間継続再受講制度のお蔭で仕事のスケジュールに合わせて学習を進めることができました。また、分からない論点は講師の方に講義の後に直接質問することができましたので、特に宮崎先生には毎回アドバイスを頂いておりました。実務経験が豊富な講師が揃っており、毎回楽しい講義でした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学コースで学習をしました。合格までの学習期間は、1年7カ月です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

多くの講師の方が推奨しているのは、問題集を3回解き、その後にベッカーの問題集とシミュレーション問題集（直前対策教材）を交互に解くこと。仕上げにAICPAのリリース問題を過去3年分程度解くことです。理想的には、授業のペースに合わせて、問題を一回ずつ解いていき、勉強会などを活用して二周目、ゼミで三周目を終えることができると効率が良いと思います。問題を解く際は1問あたり1分半で回答するこ

とを意識し、答え合わせの際に問題毎に○（正答）×（誤答）△（勘で正答）をつけて、○が三回つくまで繰り返し解くと記憶が定着されます。問題文は必ず最後の文章から読み、何を聞かれているのかを把握することも大切です。出題される切り口は決まっているので、テキストに書かれている論点を思い出し、回答に必要な情報を本文から探すイメージで解いていきました。MCの四択はなぜ他の選択肢が正答ではないかを説明できることが重要だと思います。記憶をあやふやにせず、しっかりと各論点を押さえていきました。

私は、FARゼミを活用することを強くお勧めしております。ゼミなどで仲間を作って、モチベーションの維持に役立ちました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験にあたってトラブルはありませんでした。BECの本試験時に少し大きい地震があり、机の下にもぐるか解答し続けるかを悩みましたが、一分一秒が惜しかったのでそのままタイプし続けました。試験が中止にならなくて良かったです。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

一緒に学習をしていた仲間の中で、特に高得点でパスをしていった方々と一緒に問題を解いていると、各論点をとても正確に理解しているとの印象を持ちます。逆に、75点にギリギリ届かない方と問題のレビューをすると、理論問題（AとB論点）の記憶や理解が曖昧であるように感じます。この違いはとても大きく、4択から2択までは絞ることができるのに、正答率が上がらないということが起きてしまうように思います。できるだけ多くの問題で確信をもって解答するように準備をしたいところです。

多くの講師の方が、米国公認会計士試験に合格するための学習時間として、週20時間を推奨しています。これは、平日2時間、土曜日4時間、日曜日6時間勉強時間を想定した時間です。社会人が仕事をしながら勉強を続けることは大変なことだと思いますが、なんとかかまとまった時間を確保し頑張っていたいただければと思います。

学習時間≒通勤時間



Y.N さん

勤務先：外資系メーカー
30代女性

2016年5月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：77点（2014年11月／1回目）、BEC：75点（2015年5月／2回目）

REG：79点（2015年8月／1回目）、AUD：77点（2016年4月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在、外資系メーカーでトレジャラーの仕事をしています。今後更なるキャリアステップアップを目指したくUSCPAにチャレンジしました。

USCPAの試験はFinancial-Accounting, Cost-Accounting, Macro/Micro-economics, Business-Law, TAX, IT, Auditと学習範囲が広いです。ビジネスパーソンとして知っておきたい情報を効率良く学習できるという点がとても魅力的でした。

また、テスト日時を自分の都合に合わせて行うことも決め手のひとつです。仕事を続けながらも決算などの繁忙期を避けて受験することで着実に合格できます。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

過去に税理士試験にチャレンジしておりましたので、基礎の会計・税務知識はありました。

したがってFAR, BEC, REGの学習及び理解は比較的スムーズでした。費やした学習時間はそれぞれ50～100時間程度だと思います。

これに対し、英語力はあまり十分ではありませんでした。仕事で英会話は頻繁に使用しますが、英語文章の読解は苦手です。TOEIC®テストのスコアは700弱でした。AUDは英語力も問われますのでかなり苦戦しました。学習時間は150時間を超えたと思います。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他社と迷いましたが、TACのテキストが日本語併記で説明が手厚かったことが決め手となりました。また、充実したサポートのお陰で受験手続きなどもとてもスムーズに行うことができました。もし知人にUSCPAを受験したいと相談されたらTACを勧めます。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACの先生方は大変分かりやすく丁寧に説明していただけます。それでも授業中に理解しきれない論点があれば、授業後などに時間をかけてより丁寧に説明してくれます。

また重要な論点は授業中に「ここはAランク、ここはBランク」など伝えてくれます。USCPAのテスト情報を熟知しているからこそ可能なアドバイスです。AランクとBランクを重点的に学習することで、効率的に試験をパスすることができます。

教材も多すぎず少なすぎず絶妙な分量です。復習する際にもテキスト内で十分に説明書きされているので助かります。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

一か月の残業時間が120時間を超えることもあったため、まとまった勉強時間を確保するのは困難でした。通勤時間にTACの講義を聞いたり、テキストを読み返したり、スマホからBeckerオンラインへ接続しマルチプルチョイスの問題を解いたりしていました。働きながら受験勉強を続けるのはタフな事だと思いますが、日々の積み重ねの学習が合格への近道です。

テスト直前の1.5カ月前からは休日にBeckerのシミュレーションを解きます。休日出勤があまり発生しない月を受験月に設定するようにしていました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

監査法人とのやり取りがスムーズになりました。また監査で何をチェックされているのかということと同僚や先輩に伝えることができ、チーム内でも監査対応の向上と時間短縮が図れました。

上記以外にも、詳細は割愛しますが、工作中にUSCPAの学習で触れた論点が役に立つことは多々あります。そんなときは当初の目的であったキャリアステップアップが達成されたような気がしてとてもうれしく感じます。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験時期によって傾向と対策が変化するテストですので、受験前に講師のアドバイスをしっかり聞いてください。アドバイスを聞いたらすぐにテキストなどにメモしましょう。有効な情報を必要なタイミングで把握することができるよう付箋やスマホのメモ機能などを利用してみたいかもしれません。

働きながら受験されるかたは、通勤時間やお昼休みなど細切れでも時間を捻出しましょう。タフな試練を乗り越えるからこそ価値ある成果を得られます。タフでなければ価値は無いです。努力したこと全てが報われることはないかもしれませんが、でも目標を達成した人には努力の痕跡があるものです。



皆さんの言うとおり、諦めないことが一番大事。

M.S さん

勤務先：生命保険業

2016年4月 USCPA試験合格（Alaska州）

FAR：75点（2014年10月／1回目）、BEC：78点（2015年11月／2回目）

REG：81点（2016年4月／1回目）、AUD：79点（2015年11月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

職場で使用している会計制度のひとつが米国基準（USGAAP）だったことが一番大きかったです。実際、職場でもUSCPAの資格保持者が多いものですから、雰囲気にも押された部分もあります。社内研修資料等で日本基準との差などの概観は掴めたのですが、経理財務部門に身を置く者として、OJTとしてではなくシステムティックに試験勉強することで理解が深まり業務上も有用と思いチャレンジを決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記1級は保持しておりました。

英語知識：業務上、英語・日本語半々使用（TOEIC®TEST等試験は最近まったく受けていないので不明）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日商簿記では別の大手の学校に通った経験があり比較的意図もありました。広告案内で力を入れていらっしゃる事をある程度理解し、その後説明会に参加したところ、時間制約上通学できなくともサポート体制が整っているようでしたので、TACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

ユニークな講師の方々が良かったです。個性的というかこちらの記憶に残るように意識的になさっておられた部分もあるのだと思うのですが、熱意って不思議なものでこちらも応えないと、という気になるものだと思います。ちょっとした挿話と講座内容が結びついていて、後で思い返す際に助かりました。カリキュラムは時間が限られていてもボリュームが多いので（そして自分の仕事都合もあって）、思ったようには進みませんでした。Web配信でいつでも講義が受けられるのは本当に助かりました。

Beckerについては、PCやTabletだけでなく紙の問題集もあったのが良かったです。世代かもしれませんが紙の問題集でMCを解いてからPCに向かった方が効率的だと後になって気がつきました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

職場の了承・理解を得るのが面倒だったので主に通信です。結局、受講開始からほぼ丸3年です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

ほぼ講義と四択問題演習（MC）に終始しました。1回目で受からなかった科目に関しては、テキストを読み直して自分

でノートにまとめて頭に入れるようにしました。

MCに関して全般的に言えるのは、問題上で大切な（かつ自分が読み飛ばしてしまう）英語の語句を把握することから始まりました。

FARは基準の差はあれ日商簿記と同じような内容で計算問題も多いので、債権処理、減価償却、在庫評価など大きなくくりで基本を掴んでおけば大丈夫でした。

AUDとBECは問題のクセのようなものを頭に入れると早いようです。日本の一般的な試験と異なり、至極単純化したケースを用いて考え方を問う、というような問題が多いので難しいというより、何を応えてほしいのか、ということを意識しながらMCに向かうといいかもしれません。

REGは細かい部分も多いのですが、制度や基準数値の変更の多いTAXなどは、問題である程度明らかになる部分も多いのがわかってからは、あまり%や数字そのものには拘らないようにしました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

日本受験のための追加料金の支払いを忘れたまま、日本受験の予約をしようとしてしまい、1時間ばかりErrorとなる理由が分からずPC画面前で頭を抱えたことがありました。また家のPCが古いせいか、NTS申請がInternet Explorerでは上手くいかないことがあり、ダメ元でUSの問い合わせ先にe-mail連絡してみると、すぐにTechnical adviseが戻ってきたのは嬉しい驚きでした。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

USGAAPの基本姿勢というか方針が掴めたことで、職場で行われている会計処理が頭に入るようになりました。機械的に処理するだけでなく背景まで理解できるというのは大きな差だと思います。（また監査の方が少なくとも何の話をしているのかが分かります。）

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

私自身がそうだったのですが、まず講義の受講、その後で問題、というような順序通りにこなすことを目標にすると却って遠回りのような気がします。講義と問題を解いていくことを同時に行っていく方が余程効率が良いでしょう。テキストも詳しく書かれていますから、独学でも読み進められると思います。

多くの受講生がそうであるように、仕事や私生活上の事情を抱えながらの時間確保が一番の難関です。焦らず、また諦めずに進んでいくことで、長くかかっても確実に合格が可能だと思います。



一度きりという気持ちで臨みましょう。

K.T さん

1990年生まれ

大阪大学外国語学部 外国語学科 英語専攻

勤務先：上場事業会社

2016年5月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：91点（2016年5月／1回目）、BEC：81点（2016年1月／1回目）

REG：86点（2016年1月／1回目）、AUD：96点（2016年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

繁忙期以外は17時に帰宅できるため、軽い気持ちで始めました。予想以上に大変で、心が折れそうになりました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級、FASS Aランク、BATIC® 993点

英語知識：TOEIC®TEST 960点、英検1級

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

試験自体よりも事務手続きに不安があったため、最も懇切丁寧なHPづくりのTACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

これまで資格は全て独学で取得してきた僕にとって、講義を全て受講する必要がないレベルまで作りこまれたテキストは大きな魅力でした。特に、AUDのテキスト構成は素晴らしく、監査フェーズ毎の処理を効率的に描くことができました。また、REGやFAR（NPA）の直前対策まとめは重要論点が凝縮されており、テキストを再読する必要もほとんどありませんでした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。平日2時間、休日4時間コンスタントに勉強しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

受験順に記載させていただきます。

BEC：講義は視聴しませんでした。テキストを通読し、TAC問題集1周→Becker MC（4択問題）2周→BeckerランダムMC30問／回（全単元）を行いました。他の科目をメインに勉強している時もテキストの通読は欠かしませんでした。言語面での障碍がなかった為、WCは例題を確認した程度です。Becker模試は約65%の正答率でした。

REG：講義を視聴し、受験までにTAC厳選問題集を5周とBecker SIM（シミュレーション問題）を1.5周しました。Business Lawの問題はできるだけ解かず、テキストを何度も読むことで重要論点を確認しました。Becker模試は約75%の正答率でした。

AUD：講義を視聴し、TAC問題集1周→Becker MCとSIM1周→BeckerランダムMC30問／回（各単元）を行いました。その間も、テキストやレポートの雛型を何度も確認し

ました。Becker模試は約85%の正答率でした。

AUDは暗記よりも論理が重要です。

例えば、emphasis of matter paragraphをどうしてopinion paragraphの後に付け加えるのでしょうか。強調しただけで、意見を変えるわけではないからです。

このように一見暗記に思われるセクションにも論理が隠れています。論理のクセをみつけてから、選択肢に迷うことはなくなりました。哲学や言語学を好んで学んだことも奏功したのかもしれませんが。

FAR：NPAとパートナーシップ会計のみ講義を視聴し、TAC企業会計問題集1周→Becker企業会計MCとBecker SIM1周→TAC企業会計とNPA問題集3周を行いました。NPAで落とさないよう、試験当日にも直前対策まとめを一読しました。Becker模試は約75%の正答率でした。

後知恵ですが、BeckerランダムMCは全単元ではなく、各単元ごとに設定する方が良いと思います。全単元で設定すると抽出される問題に偏りがあり、その為かBECは低い点数になってしまいました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学部時代は全く異なる学問を修めていた為、単位が絶望的に不足していました。8月くらいから漸くブラッドリー大学での単位取得に乗り込みましたが、取得後に膨大な受験手続が待っており、もっと早くスケジューリングすべきでした。結局、四半期決算と年度決算の最中という、心身ともに健康とは言い難い状況で試験に臨むことになりました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

AUDの知識が決算時のチェック作業等を整備するのに役立っています。また、体系的な知識を得られたことで様々な角度から物事を考えられるようになりました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

時間配分が重要な試験だと思いました。特に、MCでの見直しはかなりの口スに繋がる為、できるだけ見直す必要がないよう試験を進めることをお勧めします。SIMには見直し時間も含め1時間45分程度残しておけば、落ち着いて完答できるのではないのでしょうか。

言語面で不自由なくとも、何を問われているのかさえわからない問題も出てきます。澄んだ目で状況を把握できるよう、一度その問題から離れることが重要です。



USCPAの勉強を通して人生が180度変わりました

森 奈賀子 さん

1975年生まれ 淑徳SC 高等学校 卒業
勤務先：楽天 株式会社
第19回オリンピック冬季競技大会 2002年ソルトレークシティ
日本代表出場 種目 スノーボード ハーフパイプ

2016年6月 USCPA試験合格（モンタナ州）
FAR：88点（2015年11月／4回目）
BEC：78点（2016年6月／4回目expire1回）
REG：77点（2016年2月／3回目）
AUD：75点（2014年12月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

再就職する為。グローバルに活躍できる社会人になりたかった為。一度猛烈に勉強する経験をしたかった為。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記 2級、3級
英語知識：TOEIC®TEST600点、日常会話が可能なる程度

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日商簿記 2級、3級をTAC渋谷校で学んだ為

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

先生方が家族のように優しく常に協力してくれた事が印象に残っています。受付の方や電話対応の方も皆さん丁寧で、自習室も多く、校舎も綺麗で勉強しやすかったです。再受講者用の割引制度もとても良く、教材をわずかな価格で買いなすだけで、何度も教室で授業を受ける事ができたのが良かったです。教科書も最低限の内容に良くまとまっているので、勉強に慣れてくるとその簡潔さに感動しました。TAXや仕訳の直前対策の小冊子は、非常にわかりやすくまとまっていて、持ち運びもかさばらない為、通勤時間に何度も読み返すことが出来ました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

最初は通信講座で申し込みましたが、一人では出来ないのではないかという恐怖にかられ、急遽通学に変更したのが良かったです。たくさん友人も出来ましたし、飲み会の場も何度も企画していただいたので、情報交換の場がき本当に救われました。

2012年春生で一年間受講し、翌年は自習や再受講を繰り返しながら勉強しました。2年間で合格することを目指していたので、最初の2年間は無職で勉強しましたが、大学の勉強経験がない自分は、理解の遅さや集中力のなさに苦しみ、残念ながらこの二年間は1科目も合格する事ができず貯金も減るばかりでした。

3年目から派遣社員として初の経理関係の仕事を経験し、2科目を合格したところで転職に成功し、最後の1年間は正社員として毎晩仕事も遅く大変だったのですが、何とか4年かけて合格する事ができました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

TACの1年間の受講が全て終わったあとは、5ヶ月に1科目のペースで受験していききました。

最初の2ヶ月間で教科書を全て読んで理解し、残りの3ヶ月で、問題を解き続けるといった学習方法が良かったと思います。

最初の2ヶ月間は、平日であれば、教科書は10ページほど進み、週末は100ページ進む。カラーペンを細いものから太いもの、自分の気に入った文房具をそろえ、インデックスをたくさん貼り、キャラクターのシールなども張りながら、勉強が嫌いにならないように教科書の加工を工夫しました。

残りの3ヶ月は、問題集を解いていくのですが、1回転目は速くても1時間で5問ほどしか解くことができず時間がかなりかかりましたが、色々と書き込みをしながら進みました。平日は一日10時間以上、休日は60時間以上を目指して解き、1.5ヶ月で問題集を一回転させます。2回転目は間違ったところだけを聞き、3回転目は不安なところを間違えなくなるように、とにかく理解に重点を置きながら解きました。

キーポイントは、問題文以外に、間違っている選択肢の解答解説も含め、全て読んで理解する事です。本番はどんな問題が出るかわからないので、なんとなく覚えてたか、わかる所だけ読んでおけばいいということでは絶対にダメだと気づき、とにかく解らないとこ

ろが全くないように全てを読んで理解するように努めました。

あとは、疲れてボーっとしているときでも目に入るように、家のいたるところに苦手の部分をまとめた紙を張りました。お手洗いや、寝室の壁、勉強機の正面など、試験前はもう張るところがないくらい隙間なく貼り、教科書を開かなくても苦手を克服できるいいアイデアだったと思います。

通勤電車でも、色々工夫しました。電車の中は常に耳栓をして、勉強に集中するようにしました。帰宅時の電車は比較的場所を選べば座れるため、PCを開いてマルチプルチョイスを何回も続けました。

朝の満員電車では、Audit Reportの一文章を一日に一文覚えると言う風に毎日少しずつ暗記していきました。そうすれば、目をつぶっていても、教科書を開かなくても勉強が出来ました。

仕事前に、早朝はTACで勉強してから通勤する事もよくしましたし、仕事が遅くなる日が続くときは、1時間でもいから、お昼や終電前に会社の図書室にこもってひたすら勉強しました。

終電が終わった後は、駅前のファーストフード店で2時ごろまで勉強して帰ることもありました。

週末は携帯やパソコンを持ち歩かず、TACか会社の図書室で、ひたすら勉強をしていました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私は大学を出ていなかったため、かなりの量の単位を取得する必要がありますが大変でしたが、先生方が親身にスケジュールと一緒に考えてくださったので、集中して単位を取りきることが出来ました。

単位取得に集中しすぎてしまい、いよいよ申し込みのときに、アメリカ大使館から直接貰わなくては行けない書類や、前職の上司からの推薦状なども必要であった事をTACから聞き、あわてて用意したのを覚えています。州によって受験前の準備が異なり、クラスの知人とも共有できない事が多いため、受験手続は勉強と同じくらい注意して慎重に準備する必要がありました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

一番良かったのは英語力です。U.S.CPAを始める以前に、何度もTOEICは受験していましたが、600点を超える事がなく諦めていました。昨年再就職の試験で、TOEIC800点が必須だったのですが、U.S.CPAの勉強のおかげで、820点を取ることができました。今では職場でメールのやり取りやマニュアルの翻訳が全く苦ではなく、海外の案件のお手伝いをさせてもらえるなど、4年前の自分とは雲泥の差です。

何と言っても、今まで電話対応、来客対応、コピー、ファイリング、スケジュールリングしかやっていたことのない自分が、40歳にして見事大きな企業の経理部門に転職する事が出来たのも、勉強したお陰です。

友達関係にも変化が生まれました。4年間、ほとんど友人に会う時間がなかったため、疎遠になっていく友人も多い中、最後の試験まで連絡を我慢して待っていてくれた友人達が、本当の友達だと実感する事ができています。

他にもここには書きつくせないたくさんのメリットがあります。読書力や、自己解決能力、自己コントロール能力もものすごく上がりました。

感謝の気持ちと達成感で感無量です。本当にありがとうございました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

合格するまでに個人差がとても出る試験だと思います。英語が出来なくても1年で合格する方もいらっしゃるし、英語が上手な方でも数年かかる方もいらっしゃいます。長時間勉強する姿勢を既に習得されている方は、1年半くらいで合格できると思います。そのような経験がない方は、私と同様長期戦となるかとは思いますが、自分には無理と思う方ほど、合格後の収穫＝自分の成長は大きく、周りの環境も変わります。自分に変化を求めるなら、絶対お勧めします。



勉強法を工夫して、効率的に合格

S.N さん

1987年生まれ

早稲田大学 2010年卒業

勤務先：外資系コンサルティング会社

2016年7月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：79点（2015年5月／1回目）、BEC：80点（2015年1月／1回目）

REG：78点（2015年10月／1回目）、AUD：95点（2016年7月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

企業経営に携わる仕事していくと考えたとき、会計やファイナンス、税制などを包括的に学習できるU.S.CPA試験が必要だと考えたからです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 850点

U.S.CPAに挑戦するにあたり、簿記2級を取得しました。英語に関しては、元々読み書きは普通にできるレベルでしたが、試験後には特にリーディングのスピードが劇的に上がりました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

各校の説明会やパンフレットを見たところ、一番教材ボリュームが多いものの、解説が細かくされており、理解・範囲不十分で試験に臨むことはなさそうだと感じたためです。実際勉強してみると、そこまでボリュームの多さは気にならず、Beckerの過去問でわからない部分を教科書で補うときに、むしろしっかり解説が網羅されており、日本語で腹落ちできている、試験前に範囲全体を確認できている、という状態で自信をもって臨むことができました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

私の場合は通信でしたが、それでも画面越しに講師の方々の（時には異様なくらいの）アツさがつたわってきて、それにつられて自然と集中力が上がっていた気がします。飽きずに学習できたのは、情に厚い小泉先生、二ノモニック連呼が確実な記憶を誘う内田先生、人生観をおしえてくれる草野先生、クールな田中先生といったユニークな講師の方々のおかげかな、と思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。学習期間に関しては、単位取得期間も含め、トータル2年間くらいです。事前に受験した簿記2級の学習内容と重複する这一点と、単位取得の為に最初に勉強が必要という点を考慮し、FAR/BECを一括りにし、先に受験しました。2年の間に、結婚や引っ越し、転職などのライフイベントがありました。また、当初週15時間の勉強を目標としていましたが、平日も接待や残業などが重なり、なかなか目標の勉強時間を達成できず、勉強が思うように進まなかったことも多かったです。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

[全般]

社会人は勉強に費やすことができる時間が限られていますので、勉強法の工夫が重要だと考えています。受験生にとってつらい瞬間は、一度講義を聞き問題を解いてしっかり理解したつもりでも、一周回って改めて問題を解いた際に、すっぱり記憶から抜けてしまっていた、というときではないでしょうか。このことを考慮して、記憶から抜けることを前提にし、短期間で全体をレビュー出来る仕組

みを整えておくことが必要だと考えました。

わたしの場合は、全ての科目に対して、サマリノートを作っていました。これから勉強する方には特におすすめします。教科書をすべて持ち歩くよりも量が減るといった観点だけでなく、どの内容をどこまでサマリ化するか、それぞれのキーポイントは何か、その構造は、といったことを自分の頭で整理する中で記憶が定着するよう感じるからです。

概ね、下記に沿って学習をしていました。全行程で1科目3~5か月程度でしょうか。

1. 講座を倍速で聞きながらサマリノートを作る。
2. Beckerを一通りやる。その際、サマリノートに追記していきながらブラッシュアップしていく。
3. サマリノートの、キークエストION(LCMの算出手順は？など)だけを抜き出したサマリを作る。
4. キークエストIONに対する答えを暗記しつつ、Beckerの間違った問題を繰り返し復習する。

[AUD]

この科目だけは、複数回の受験を余儀なくされました。かなり細かい部分までテストに出題される印象です。上記の勉強法に加え、Weakerがついた項目に対しては、TAC教材(日本語)とBecker教材の内容(英語)の両方を読み込み、網羅的にサマリ化しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続で特に不自由を感じることはありませんでした。テストは長いもので4時間と長丁場になるので、自分の集中できる時間帯、前日の睡眠時間、その週の仕事の負荷を考えつつ、テストセンターの予約をしていました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

3科目合格した段階で、事業会社からコンサル業界に転職しましたが、「その施策はB/S、I/Sにどう影響してくるのか?」「ある国に進出する上で考慮が必要な税制は?」というような問いが頻繁におこるので、その際にU.S.CPAの学習内容が役にたっています。コンサルの中には、ファイナンス・会計よりの案件も多いので、今後はその分野にも幅を広げられればと考えています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

楽しく、メリハリをつけて勉強することが重要だと思います。私の場合には、試験後、テスト結果がでるまでの1か月間は勉強しない、というルールを作ったり、同じく試験勉強をしている友人が数名いましたので、合格祝いとしてお互いに高級な食事をおごりあったりというようなことをしています。

U.S.CPAを目指す理由はそれぞれ異なるかと思いますが、その知識をどう活かしていくかという部分を想像しながら勉強することが一番のモチベーションになると思います。英語というハードルもあり、テスト範囲も膨大なのでくじけそうになりますが、Expire期限もあるのでスケジュールを立てやすいと思います。モチベーションをもって着実にすすめていけば、合格できるとおもいます。頑張ってください。



授業を見る前にまずは問題から

K.Y さん

勤務先：会計事務所

2016年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：88点（2016年4月／1回目）、BEC：83点（2016年5月／1回目）

REG：76点（2016年7月／1回目）、AUD：80点（2015年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

アメリカでの勤務に先立ち、最低限の知識を備えたいと思い受験しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士の資格を持っています。

英語知識：TOEIC®TEST 950

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

説明会に参加してテキストを閲覧した際に内容が非常にわかりやすかったためです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

受講生情報サイトは非常に貴重な情報がたくさん掲載されており、非常に役立ちました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信 2015年9月に開始し2016年7月に全科目合格しましたので10ヶ月程度でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

すでに日本の公認会計士の資格を持っていたため、U.S.CPA試験の対策としてまず問題を解いて、わからない部分だけ講義を視聴するようにしました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

大阪（中津）のテストセンターで受験しましたが、非常に静かで快適でした。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

今まで知らなかった単語や表現をたくさん覚えることができたのが一番の収穫です。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験開始時点である程度の会計監査知識・英語力がある方は、まず問題から解いて、気になる部分だけ授業を見ることをお勧めします。その方が時間の節約になります。



TAC と Becker で短期合格！

小嶋 のぞみ さん

慶應義塾大学
勤務先：監査法人
公認会計士（日本）

2016年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：89点（2016年8月／1回目）、BEC：80点（2016年8月／1回目）
REG：91点（2016年7月／1回目）、AUD：93点（2016年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

USCPAを取ればオーストラリアや香港等、他国の会計士資格にもTransferできる可能性があることがわかり、将来海外で働きたいと思っているため、その際のアピールポイントとするために目指しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士資格を保有
英語知識：TOEIC®TEST 970点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

普段USGAAPを使用した監査を行っているため当初は独学で勉強しようと思いましたが、できるだけ効率的に、早く合格したかったため専門学校に通うことにしました。
独学しようと思っていたときにどの教材を使えばいいかネットで調べていたところ、Beckerがいいという結論にたどり着き、Becker教材とコラボしているTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材
Becker教材とコラボしているところ。REGとFARのNPA以外はBecker onlineの問題だけを解きましたが、それで十分だと思います。単元ごとにランダムで何問か問題を出してくれる機能もあり（問題数や、1問あたりにかかる時間の設定は自分でできる）、ひたすらその機能で問題演習をしていました。
逆にBecker教材を使わなかったREGとFARのNPAは、厳選問題集のみ手をつけました（後述しますがリリース問題も手をつけました）。Beckerには手を出さなくとも厳選問題集のみで、合格点は取れると思います。
サポート
単位の診断から、単位認定試験の取得、質問メールの回答等、TACのサポートはタイムリーかつ的確でした。このようなサポートがなければ、短期間で合格することはできなかったと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。2015年の8月に勉強を始め、最後の科目を2016年8月に受験しました。
ワシントン州に出席をしたかったので必要な単位をブラッドリー大学で取得しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

FAR(2015年8月～9月)→BEC(2015年10月～11月)→AUD(2016年1月～2月)→REG(2016年2月～3月)という順番ですべて講義を視聴しました。本来であれば講義のあとに復習を必ずして、その範囲までの問題演習をすべきなのですが、仕事の繁忙期等は平日なかなか勉強時間が取れなかったこと、また、講義の量が多く講義を消化するだけで精一杯だったこともあり、問題演習は、NTSを取得して受験日を決めた3月終わりごろから、試験を受けた順に本格的に開始しました。
以下、受験科目順に記載していきます。
AUD：現職で監査をしていますので、この科目を最初に受けて、合格して波に乗ろうと思い、最初に受験しました。また、毎日監査をしているんだから、大丈夫だろう、という気持ちもありました。しかし、勉強を始めてみると、範囲が広いのと、普段の仕事では出てこないような細かい論点まで問われるため、意外と苦戦しました。問題演習で使用したのはBecker online (optional question含む) とリリース問題10年分、Becker Final review (模擬試験) です。Becker onlineは9割程度取れるようになれば合格に近づくことと、全論点9割になるまで問題演習を実施しました。また、特に試験直前は、問題演習だけでなく、テキストも読み込みました。こうすることで、問題演習で得た知識が体系的にまとまったと思います。後述する科目にもいえることですが、Becker Final reviewについては今までの知識の総ざらいの意味も含めて、必ず実施したほうがいいかと思っています。私はどの科目も2回ずつ解きました。1回目はいずれも6割程度の得点率でしたが、2回目になるまでには8割程度の点数が取れるように復習しました。
REG：Business lawは、最初はテキストの全範囲を対象にテキストを読み込み、問題演習を実施していたのですが、範囲が広すぎるのと、効率的ではないかと思い、途中から講師が講義の中で指摘したA論点のみテキストを読み込むという手法に変更しました。Business lawは問題演習よりもテキス

トを読み込んで、自分なりの論点ノートを作り、A論点をできるだけ暗記することを心がけました。本試験でも、A論点以外からの出題はあまりなかったように思えますし、そもそもREGの出題はTax lawがほとんどですので、Business lawに必要以上に時間はかけないほうがいいと思います。

Tax lawについては、最初Becker onlineの問題に手をつけてしまったのですが、範囲が広すぎて終わりが見えなかったため、厳選問題集に集中する手法にシフトしました。厳選問題集を何回転がさせて、試験前にはすべての問題を解けるようにしておきました。また直前対策レジュメも自分で加筆するなりして活用し、ポロポロになるまで読み込みました。また、AICPAのリリース問題も10年分実施しました。本試験で、リリース問題に近い問題が出題されたため、リリース問題は絶対解いたほうがいいかと思っています。

BEC：BECは、単位認定試験を受けた際にMA関連のテキスト、TAC問題集はほぼ見ましたので、本試験対策としては、ひたすらBecker onlineの問題演習とリリース問題10年分、Final reviewを2回解きました。WC対策としては、BeckerのWC演習問題に入っている問題と解答を印刷して、どのような言い回しが使えるのか、どのような文章構成にすればいいのかを理解、暗記しました。

BECの1つ目のテストレットは多分満点じゃないかというくらい簡単で、こりゃいける、と思ったのですが、2つ目のテストレットが急激に難しくなり、パニック状態になりました。焦りがでたのか、問題の見直しをしていたときに、凡ミスをつくらして、それがさらにパニックを引き起こしました。BECのテストが終わった後は、正直この科目は無理だったかも。。。と悲しい気持ちになりましたが、1週間後にFARの試験が控えていましたので、翌日から気持ちを切り替えて、勉強に励みました。

FAR：REGの試験が終わった7月中旬から実質的な問題演習を開始しました。8月の後半に受験予定でしたので、まず7月はNPA以外の論点の復習と問題演習、そして8月に入ってからNPAの問題演習を始めました。NPA以外の論点の復習は、まずTACのテキストを読み、その後Becker onlineの問題を解く、という流れで進めました。Becker onlineでの問題演習1周目の得点率は目も当てられないくらい低かったのですが、めげずに問題演習を続けました。NPAはBecker教材には手をつけず（SIMの練習だけBeckerでしました）、厳選問題集と直前対策のみを実施しました。NPAは1か月もかからずに十分得点源となる強みにできると思っていますので、力を抜かず頑張ったほうがいいかと思っています。FARは範囲が広すぎたため、リリース問題は直近5年分のみ解きました。また、意外とIFRSの問題も出るなと感じましたので、USGAAPとIFRSの差について自分なりにまとめて暗記しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

出願方法はTACの画像付きマニュアルがあるため、とても簡単でした。また、わからないことがあればすぐにTACの方にメールで質問するようにしました。レスポンスがとても早くて、とても助かりました。

1科目目のAUDを受ける際に少し時間に余裕をもって試験会場に行きました。本来の受験時間より1時間くらい前に到着したため、「このページは受付を済ませてから確認しよう」と思っていたのですが、受付を済ませたら瞬間に試験会場に案内されてしまいました。どうやら試験のスペースに空きがあれば、早めに行ったら早めに行っただけ受験できるみたいです。

また、勉強に行き詰まった時はみなさんの合格体験記を見て、モチベーションを上げていました。勉強方法等も大いに参考にさせていただきました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

私はUSGAAPのクライアントもIFRSのクライアントも持っているため、USCPAの勉強を通じて両者の差異を再認識することができ、業務に役立っています。また、この勉強を通じて、会計・監査に関する英語力も上がったと実感できており、日頃の海外の監査人とのメールのやりとりや、会計・監査に関する翻訳業務に役立っています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAは簡単、というイメージが強いかもしれませんが、意外と難しいな、しっかり勉強しないと合格できないな、と勉強期間を通じて再認識しました。

どの科目にも言えることなのですが、合格できそうかも、と思えたのはどれも本試験の1週間前になる頃でした。それまでは、いくら問題演習しても何回も間違えてしまったり、テキストを読んでも全然頭に入らないし。。。と、合格が全然見えなかったのですが、あるとき突然点が線になる感じで、頭はずっと入ってきて、問題の正答率が格段にあがってくるようになりました。なので、勉強をしていて、全然分らない、もう無理かも、と思ってしまってもいいかもしれませんが、諦めずに問題演習やテキストの読み込みを続けてみてください。勉強を続ければ絶対に合格できると思います！

諦めなければ必ず合格できます！！



A.T さん

1986年生まれ
早稲田大学 2010年卒業
勤務先：銀行

2016年9月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：79点（2015年8月／2回目）、BEC：77点（2016年9月／3回目）
REG：76点（2016年3月／1回目）、AUD：87点（2016年9月／1回目）

<はじめに>

まずこの場を借りて、素晴らしい講義をして頂いたTAC講師陣の皆様と多大なるサポートをしてくれた家族とパートナーに厚く御礼申し上げます。

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

TACで日商簿記2級とTOEICの学習を終えた後、世界で活躍できる資格を取りたいと考え、U.S. CPAの説明会に行ったところ、内田先生の熱い資格説明に心打たれチャレンジしようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級
英語知識：TOEIC®TEST 810点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日商簿記2級、TOEIC®TEST共にTACにて学習させて頂いたため、迷わず決めました。

判断は間違っていなかったと確信しています。

日商簿記2級は独学で何度か不合格だったものが、TAC受講後は一発合格でした。

TOEIC®TESTは500点、650点、750点、900点コースがあり、私は500点と650点コースのみ受講しましたが、受講後すぐに810点を取得することが出来ました。

教材と講義内容が素晴らしく、結果にコミットしている学校だと思えます。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師陣の皆様が熱意が素晴らしかったです。何としても合格させたいという強い思いが、講義、教材、受験手続のサポート体制の全てを通して伝わってきました。

また教材のBeckerのオンライン演習ソフトは合格に不可欠なツールでした。ネット上でどこでも利用でき、問題演習を効率的に行うことができますし、本番環境と瓜二つです。

最後に小泉先生には個人的に非常に助けて頂き、深謝致します。私は2011年秋冬入学でしたが、途中で資格取得を諦めており、学習を再開したのが2014年の冬でした。その時には既に教材が古くなっており、不安になりTACに連絡したところ、小泉先生に大変親身になって相談に乗って頂きました。またBECが2回連続で不合格になった際に、次回受験予定のAUDと合わせて勉強方法についての詳細をご教示頂きました。合格できたのは小泉先生のお力添えのお陰です。誠に有難うございました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で5年間です。途中3年間、学習を諦めていた時期があります。

学習再開時に全科目のBecker教材（オンライン演習ソフト）のみ再購入しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【資格取得を諦めたところから学習を再開させる】

私は途中の3年間、資格取得を諦めておりました。今から思うと、この時の重要なポイントは「とにかくFARの試験を1回受けてみる」とです。学習当初は教材のボリュームに圧倒されてしまい、私も一度も試験を受けることなく諦めていました。しかし学習再開した後、実際に試験を受けてみると「これは過去問が解ければ受かるじゃないか」と強く体感したのを覚えています。草野先生もおっしゃっていましたが、TACの問題集は分かりにくいところを日本語で丁寧に解説しており、実際の試験は問題集よりもかなり簡単に感じます。完璧である必要は全くないと思います。私は年金会計がどうしても分からず、とりあえず問題と答えだけ暗記して試験を受けましたが、FARは合格でした。FAR受講後にすぐに試験に申し込むことをお勧めします。

【全科目に共通する受験までの目標】

Beckerオンライン演習ソフトのランダム100問で正答率90%以上を取る。何名かの合格者様が既に記載されていますが、これは正しいと思います。定量的に自分自身の実力を把握でき、試験前の「どこまで勉強すればいいのだろう」という漠然とした不安を消してくれます。

この際にBeckerオンライン演習ソフトを利用することを強くお勧めします。問題を解く、回答を確認する、教材の該当箇所を確認するという一連の動作が、紙ベースの何十倍も効率的です。

AICPAリリース問題を過去3期分解く。

実際のU.S. CPA試験の難易度はリリース問題にかなり近いです。なおかつ同じ問題が出てくることもあるので、取りこぼしはもったいないと思います。内容のほとんどがBeckerに含まれておりますが、念のためご確認されることをお勧めします。

【学習スタイル】

DVDを1.5倍速で受講後、下記を実施致しました。

【FAR、REG】

①教科書の該当箇所を黙読し、基本例題を解く。

②問題集を1回転する。

③ひたすらBeckerオンライン演習ソフトで問題演習を続ける。

FARとREGについては計算問題が多いため、上記のような計算方法を暗記するという力技で乗り切ることが出来ました。シミュレーション対策は一切していません。しかし内容理解に乏しかったため、合格点ギリギリになっていくのだと思います。この癖が抜けなかったため、BECは2回連続不合格になったのだと思います。

【BEC】

FAR、REGと同様の学習法を取って2回連続で不合格でした。理由は内容が理解できていないため、初見の問題が解けなかったことです。小泉先生に相談させて頂いたところ、「教科書を読みなおすといい」とご助言頂き、教科書を1回全て音読しました。音読は黙読よりも口と耳を使うため、内容の理解と定着には最適でした。その結果、初見の問題も解けるようになり、Beckerオンライン演習ソフトも正答率90%以上を取れるようになりました。BECの問題は、計算を含め理解していないと解けない問題が多いと思います。

もう一つ厄介だったのがWritten Communicationです。これは何問か問題演習した時に、下記のパターンに当てはまる問題の確率が高いことが分かり、このテンプレートを持って試験に臨みました。

導入：あなたはAとBで迷っていますね。なので私がこれらの説明をします。

内容：Aはこういうもので長所、短所はこうです。Bはこういうもので長所、短所はこうです。なのでAをお勧めします。

結論：Aをするためにまずはこんなアクションが必要です。

最後：一緒に頑張らしましょう。

【AUD】

計算問題が全くないため、BEC以上に理解が大切だと思い、教科書を3回音読しました。理解度は1回目：30%、2回目：60% 3回目：90%と確実に上がっていったと思います。AUDでしか使わない単語が出てくるので、その単語は自分の分かる日本語の文章に置き換えて、その単語を見て自動的に文章が思い浮かぶように訓練しました。教科書の問題は音読時に3回とも毎回解きましたが、問題集は1回転のみです。

小泉先生より、①あやふやなところをなるべくなくすこと、②Reportはなるべく暗記すること、の2点が重要とご助言を頂き、①はミスノートを作り間違えた問題を書き留めておいて定期的に見直しました。②は合格されている方のアドバイスをみて、スマートフォンへレポートを録音して出勤時に聞いていました。自分の声のレポートを聞き続けると暗記まではいかなくとも自然に内容が理解でき、MC及びSimの両方の対策になるので非常にお勧めです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はTACの説明書に沿って行い、何一つ問題ございませんでした。

受験は全て日本で受けましたが、問題は一切ございません。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

内的なことでは、業務であまり利用しない契約書がすんわりと読めるようになりました。また物事の全体像を捉え、理解することが出来るようになり業務プロセスが改善しました。

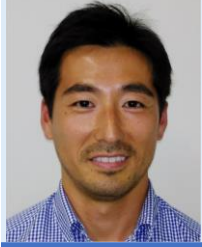
外的なことでは、知識の幅が広がったことでファイナンス+@の話ができるようになり、お客様に喜んで頂いた時は大変嬉しいですし、役に立ったと実感します。また社内でもある程度の英語力と会計知識があると認知されますので、業務が進めやすくなったと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

現在もし途中で諦めてしまっている方がいれば、「とにかくFARの試験を1回受けてみる」として見て下さい。「これは過去問が解ければ受かるじゃないか」と確実に思うはずですが、そうしたら後は「Beckerオンライン演習ソフトのランダム100問で正答率90%以上を取る」だけです。それを実現するための全てがTACにはあります。

最後にこの場を借りてもう一度、講師陣の皆様には大変御世話になりました。

心より御礼申し上げます。



椅子の上にも6年

富永 伸哉 さん

ニューヘブン大学院 スポーツ産業経営学科
2008年卒
勤務先：外資系食品会社 FP&A

2016年8月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：84点（2016年8月／4回目）、BEC：81点（2015年11月／3回目）
REG：75点（2015年7月／3回目）、AUD：78点（2016年2月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の大学を卒業した後、アメリカのコネチカット州の大学院へ行ったのですが、毎週末ニューヨークにある日本のサッカーチームに参加していました。そのチームメイトに米国の監査法人の方たちがいて、その内の1人と仲良くなりました。その人がU.S.CPAを今勉強しているということを知り、U.S.CPAの存在を知りました。U.S.CPAを勉強すれば海外で働けるきっかけになるかもしれないと思いました。

またその後、日本の自動車メーカーで海外営業部にて勤務するようになったのですが、仕事内容が価格の交渉や社内何れ作成、お客様とのコミュニケーションが中心となっていて、専門的な知識が付かないなと感じていました。そこで会計の知識を身につけて自分の可能性を海外へ広げてみたいと思うようになり、U.S.CPAの学習を試みようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：大学院で会計の基礎的な科目を取っていましたが、初歩的な仕訳についてなど学ぶ感じでしたので会計に関しては初学者に近いと思います。

英語知識：大学1年の時のTOEIC®TESTのスコアが810点でした。米国に留学もしていたのである程度はあると思います。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

U.S.CPAについてインターネットで検索をして、ホームページの情報が一番充実していたのがTACだと思ったことや、無料の講座説明会に行ったときに内田先生が色々丁寧に説明して下さったことや、その時拝見したテキストが充実しているなと思ったことが理由です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

FAR1を教えてくださいました小泉先生は初心者向けに丁寧に教えてくださいました。U.S.CPAの学習に興味を持つことが出来ました。FAR3の公会計では内田先生が用意して下さったまとめプリントが試験直前のレビューに非常に役立ちました。またBLをご担当の杉浦先生は説明のポイントが的確で、指摘していただいた箇所がそのまま試験に出てきました。

あと、草野先生が毎週メールマガジンで書かれているコラムは毎週楽しみにしてまして、勉強の息抜きになりました。

教材に関しては、TACの受講生情報サイトが役に立ちました。アップデートがコンパクトにまとめられていたのは重宝しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習をしました。合格までは2010年の春先から学習を開始いたしまして6年くらいかかりました。途中2013年ごろに半年ほど学習を中断していました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

受験期間が長かったこともあり、アップデート部分はBeckerやTACのホームページにある情報を利用しフォローしていました。学習方法としては、一通りDVDを視聴し、Beckerの問題を解き、理解があやふや、又間違えた箇所をテキストに戻りメモを取り復習をする流れです。

各科目では

FAR：公会計が苦手でした。試験に出る所は決まっていると感じたので、公会計独特の仕訳を中心に抑えていきました。

BEC：自分にとってはなじみやすい科目でした。Fixed Cost (Manufacturing) の扱いについて当初混乱し、そこについては整理して抑えていくようにしました。

REG：実務での売買契約書以外に法律に触れた事が無く、ある程度根気よく暗記しなければならぬBLが、馴染みにくく完全に理解するまで苦労しました。

AUD：実務で監査をやったことがなかったのではなかなかいメージがし辛かったです。

2択までは絞れるのですが、そこから正答にしていくのが難しく、一度TACにどのように学習したらよいか質問させていただきました。

いただいたアドバイスとしては「間違えた選択肢をなぜ間違えたのか、それぞれの選択肢の解説などを読み込み分析すること」だと教えていただきました。そこで、間違えた問題をノートにまとめたりして分析することを心がけました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験しようと考えていたメイン州が受験要件変更となり、急遽単位を取得する必要が生じてしまいました。

また、以前はブラジルにて語学研修してまして、その時はニューヨークで受験していたのですが、フライトだけで10時間以上かかりました。飛行機の中での学習も難しかったり、ニューヨークについても観光気分が抜けなかったりして、受験本番に集中できなくて苦労しました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

やはり、転職するきっかけにはなりました。2科目合格の時点で外資系のFP&Aのポジションで転職先が決まったのですが、今までの職歴だけでは転職が決まることは厳しかったのかなと思います。

仕事上では「価格の弾力性」や「コスト分析」といったBECで学んだ項目が役立ちました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は努力すれば結果がついてくる試験だと思います。私はREGとAUDが苦手、FARとBEC合格後のクレジット有効期間内に受かる事が出来ず、4教科合格までの期間が長引いてしまいましたが、それはそれまでの勉強方法が効率的で無かったからだだと思います。これまでは問題を解いて解説を見て分かった気になっていましたが、それだとまた同じところを何度も間違えてしまっていました。そこでエクセルにそれぞれの問題に○×△を付けて管理し、その隣に備考欄を設けて間違えたポイントなどを整理していったところ知識の定着が非常に良くなりました。

また勉強時間の確保も重要だと思います。私は主に朝中心に勉強していました。朝6時に起きてエスプレッソカフェを飲んで目を覚まし、そこから1時間～1時間30分くらい勉強をし、昼休みは15分から30分程度問題を解く時間に充てていました。夜はジムへ通うので、家に帰るとどうしても眠くなってしまいうのでジムの休憩スペースでも勉強はしていました。逆に週末は長時間自由時間が取れる反面、集中力が平日の限られた時間程保つ事ができず、勉強時間は午前2時間、午後/夜の2時間だけに抑えて、コマ切りの時間を活用していました。

合格した後の将来の自分が活躍する姿を忘れずに、自ら効率的なやり方を見つけ日々積み重ねて合格を目指す事が最短の近道です。参考にいただければ幸いです。



継続的な努力が実を結ぶ資格！

M.A さん

私立大学院 化学・生命化学専攻 卒業
勤務先：ヘルスケア関連事業会社 内部監査部

2016年6月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：88点（2015年8月／1回目）、BEC：90点（2015年11月／1回目）
REG：88点（2016年6月／1回目）、AUD：92点（2016年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

研究開発部門から内部監査部に異動になり、海外子会社の業務監査・内部統制評価をすることになりました。そのため、英語と会計の知識が必要になり、両者をまとめて勉強できるU.S.CPAの勉強を始めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：大学・大学院と理系だったため、会計・ビジネス単位ゼロからのスタート。
USCPA学習前に簿記2級 2014年11月取得。
英語知識：TOEIC®TEST 915点。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACには日商簿記検定の学習時からお世話になっていたこと、またU.S.CPAの説明会で教材を実際にみて、しっかりしたテキストのボリューム・解説量が会計初学者の自分には適していると思ったためTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

FARは宮崎講師の授業とゼミに参加し、Box図などを使って解く解法が自分にはあってやりやすかったです。また、FARの公会計とREGの税法は内田講師の直対まとめが非常によくまとまっており、日々持ち歩いて通勤電車の中で暗記学習をしていました。その他、BEC、AUDとも先生ご自身の仕事の経験等を交えながら授業をしてくださることが多く、興味をもって受けられる授業でした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通学でしたが8割程度の授業は実際に教室で受講しました。
合格までの学習期間は1年半です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目、1年間の授業スケジュールに合わせて受講していました。並行して最初の5か月で単位取得を完了し、その後、本試験に向けた勉強へと進めました。全科目、試験日を決めたらやるべきことを逆算し、余裕を持った計画を立ててきました。

特に社会人の方は急な仕事、出張などが生じることはあるかと思っています。ですので、最初から2週間程度はマージンを持って計画を立てると、無理なく進められるかと思っています。

勉強内容としてはTACの教科書を見直しつつ、TAC問題集の問題全てに○が2回つくまで解き、並行してREG以外の3科目はBeckerをやりました。さらに試験1か月前程度にAICPAリリース問題やBeckerのFinal examを行い、最後は×がついた問題を中心に見直しするという順で学習を進めてきました。

その際、TACの授業と並行して問題集をきちんと解いていたFARとAUDは授業が終わってしばらくたっていても知識がある程度定着しており、比較的スムーズにBeckerに取り掛かることができました。

一方、それを怠ったREGとBECは授業が終わってから本試験までの間に知識がほぼ抜けてしまい、再度ほぼ一から勉強をする必要がありました。特に社会人の方はかなり大変かとは思いますが、年間スケジュールに沿って授業を受けている方は授業と並行して問題集をきちんと解いてキャッチアップすることが合格への近道かと思っています。

また、感覚が鈍らないよう、試験1か月前からはBecker ランダムを毎日10題やってきました。この試験は時間配分も重要だと思しますので、毎日数題でも解き続けることで試験当日の緊張でもある程度の速さで解けたのはよかったですと思っています。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初の科目であるFARは8月中旬に受験をしたいという思いがあり、少し遅れていると感じただけでNTSの発行状況をすぐにNASBAに問い合わせました。その後、すぐにNTSを発行してもらえました。NIESの学歴審査、NTS発行時のトラブルなどの場合は待っていても解決しないので、少しでも不安に思ったらTACに相談やNASBAに直接問い合わせを行うとよいと思います。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

元々会計知識や一般的なIT、経済学といった基本的な知識がないまま内部監査部に異動した私には、U.S.CPAで体系的に幅広い分野を勉強することは業務をする上で有意義でした。

特に、海外子会社の内部監査・内部統制評価では英語で書かれた会計関係の書類をスムーズに理解でき、AUDで学習した監査手法などの知識は業務監査でも役に立っています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は、いわゆる誰もが解けないような奇問・難問は出ないと思います。（もしくは、出たとしても解けなくてもよいと思われるレベルかと思っています。）ですので、変にとぼしたりせず、基本をしっかりとおさえて努力を続けることで、必ず実を結ぶ資格だと思っています。

また、この資格は授業だけでも1年間のカリキュラムであり、長丁場の試験を挑むうえでモチベーション維持は重要になってきます。幸い私は同じTAC U.S.CPA受講者を中心とする勉強仲間にも恵まれたため、最後まで続けることができました。

みなさまが最後まであきらめず合格をつかまれることを祈っております。

限りある時間を有効に！



R.T さん

勤務先：税理士法人
日本の税理士資格を保有

2016年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：89点（2015年12月／1回目）、BEC：80点（2016年3月／1回目）
REG：91点（2016年5月／1回目）、AUD：81点（2016年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

将来の海外勤務の準備と、幅広い知識を吸収したいと考えたためです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験簿記論レベル
英語知識：TOEIC®TEST 910点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士試験でお世話になっており、カリキュラムの内容を信頼していたためです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

試験で重要性の高い内容が教材にまとまっており、効率的に勉強できました。

また、Beckerのオンライン問題はパソコンやスマホでの勉強に非常に役立ちました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。学習期間は2015年7月～2016年7月までの1年1カ月です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全般）

仕事をしていると絶対的な時間がないため、通勤時間、お昼休み、就業時間後など隙間時間をフル活用して勉強しました。

具体的には、①講義を視聴（FARとBECのみ視聴。REGとAUDは②からスタート）、②TACテキストを読み、③スマホ/パソコンでBeckerオンライン問題集を解き、④間違えたところを重点的にTACテキストで復習し、⑤正答率が概ね90%になるまで繰り返し問題に取り組む、というサイクルで学習しました。また、試験の前日と当日は自分が苦手としている内容を中心にテキストを1回転させました。

（FAR：1科目目）

1科目目に学習したため思うようにペースがつかめず、結果として学習開始から受験まで5カ月かかってしまいました。どの科目を1科目目にするとしても、学習開始前に、講義、テキスト、問題集のサイクルを、日単位、週単位で（無理なく）計画する必要があると思います。

講義を1周し、TACテキストを読み、Beckerオンライン問題集を正答率90%になるまで繰り返しました。

（BEC：2科目目）

講義を1周し、TACテキストを読み、Beckerオンライン問題集を正答率90%になるまで繰り返し、復習でTACテキストの該当箇所のみ読み返しました。

年末に講義を見終えてから年始の学習再開まで1週間～2週間くらい時間が空いてしまい、講義の内容を忘れてしまったため、TACテキストを2周しました。なじみのない学習内容だったことも講義の内容を忘れてしまった一因だったと思います。

（REG：3科目目）

税法は税理士試験でも仕事でもなじみがあったので、学習にあまり抵抗はありませんでした。REG以降は講義を視聴せず、TACテキストを読み、Beckerオンライン問題集を正答率90%になるまで繰り返しました。

（AUD：4科目目）

監査サイクルと内容の理解を重視し、TACのテキストを「読書」感覚で何度も読み返しました。Beckerオンライン問題集は正答率90%になるまで繰り返しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私は大学の会計学科を卒業していたため追加単位の取得をすることなくアラスカ州での受験資格を満たすことができましたが、それでも受験手続は煩雑でしたので、気合を入れて一気に手続きを終え、学習体制を整えました。

また、試験日を早いうちから予約してしまい、締め切り効果で自分を追い込む方法でモチベーションを高めました。プロメトリックテストセンターの受験では、耳栓を使用することができ、集中力を維持するのに効果的でした。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

コーポレートガバナンスやITシステムの知識など、まだまだ実務に使えるレベルではありませんが、クライアントや会計士の同僚と概略的な話をする際に役立っていると思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

時間は有限です！自分が勉強に使える時間を前提とした学習計画を立てること、いつまでに合格する！という強い気持ちで勉強することが、シンプルですがとても効果的だと思います。



TAC合格体験記は宝の山。自分に合ったやり方を見つけるヒントとなります。

龍野 俊介 さん

Lancaster University Management School
勤務先：自動車メーカー

2016年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：79点（2015年5月／2回目）、BEC：80点（2015年8月／1回目）
REG：80点（2016年1月／1回目）、AUD：76点（2016年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

社内で財務・会計系の部署に異動したく、専門性をアピールできる資格が欲しいと思ったこと。もう一つは、会計だけでなく、監査、税務、ビジネスなど多岐にわたる知識を得られると思い、チャレンジを決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級
英語知識：TOEIC®TEST 915点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACオリジナルのテキスト・問題集の評判に加え、Becker教材まで利用可能な点、コストパフォーマンスが大変良いと思いました。また説明会で面談した講師方々の親身な対応に触れ、受講を決意。実際、受講後も大変手厚くサポート頂き、この判断は間違っていないものでした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACテキスト・問題集の質が大変高い点。一見ボリュームも多そうに見えましたが、各論点を網羅できており、進めてみるとサクサク進められます。また講師の方に気軽に質問・相談できる点があったです。最後に受験したAUDに1回目Failしてしまった時、小泉先生に親身に相談に乗って頂き、方向性が明確になり、次につながる力になりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。2014年春に申し込みましたが、個人都合で2014年末まで本格的に教材に手を付けられず、実質合格まで1年10か月程度です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

すべての科目をまず学習するのではなく、1科目勉強したら試験を受け、パスしたら次の科目の学習を始める、の繰り返しで臨みました。メリットとして、無駄なく学習できる点がありますが、一方で「科目合格→次の科目受験」までの時間が長くなり、Expireさせない戦略が必要になります。

次に学習方法ですが、

FAR、BEC、REGはTACテキスト、問題集、AICPAのリリース問題のみを活用し、BeckerはFinal exam（模擬試験）を1回のみ。AUDは他3科目の勉強+BeckerのMC、TBSをじっくりやる方法。詳細は下記になります。

■FAR、BEC、REG

講義を1回転目、同時並行でTAC問題集を解く→AICPAリリース問題を3年分解き、問われていた論点を、テキスト・レジュメ該当箇所にメモを入れておく→講義を1.5倍速で2回転目。この際、AICPAリリース問題で問われていた箇所まで止め、内容をしっかり咀嚼する→

同時並行でTAC問題集を2回転目→AICPAリリース問題3年分を2回転目→Beckerの模擬試験→弱点となっていた箇所を再度復習→本番

■AUD

初回受験時は他の3科目でやった方法と全く同じやり方で挑みましたがFail。AUDは他3科目に比べ範囲は狭いのですが、概念の深い理解が求められると感じ、次はやり方を変えました。具体的には、BeckerのMC、TBSを2回転し、正解・不正解に関係なく、「なぜその選択肢なのか？」を必ず考える。「何回転」と量を目標にせず、自分の腹に落ちるまでは、何時間でも同じページに留まる。

私は1人での学習でしたが、この科目はグループで議論しながら学習が向いていたように感じます。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

すべて日本受験。会場近くのドーナツ屋で試験前、同じドーナツを食べるのを決まりとしていました。「これを食べれば受かる」と不思議な自信みたいなものを感じ、本番でも「絶対大丈夫」と妙に安心したものです。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

社内で数字に強いアピールとなり、全科目合格前に希望していた財務・会計系の部門に異動することが出来ました。またアピールだけでなく、各科目で勉強した内容がそのまま実務で役立つこともありました。特にFARでの会計知識、BECでのFIN関連が実務に直結した知識となっています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

全科目合格までそれなりの時間が必要で、送られてくる教材も多いことから、当初は何をどう進めていいかわからず、苦労した経験があります。試行錯誤を繰り返す中、下記3つ大切にしていたことを共有します。

1. TAC合格体験記を活用し、各人の合格パターンを理解する
合格体験記は宝の山。合格された方のBackground、スコア、具体的な勉強方法を参考にすることで、自分に合ったやり方、道筋を見つけることが出来ます。
2. 試験で問われる範囲の全体像、合格までの日程を作る
テキストの目次ページのみをコピーし、学習範囲を把握。次に上記1で作った自分なりの進め方を参考に、試験日を設定し、日々スケジュール進捗管理をする。
3. 自分の理解度を客観的に把握すること
何回転する、というのはあくまで目安であり、一番大切なのは、自分がどこまで理解しているか、だと思います。量が必要なのか、質が必要なのか、状況により判断が必要。他人は他人、自分は自分と割り切り、決して比較せずに自分なりのやり方を貫くようにしていました。

まずは、1科目合格から！



T.T さん

立教大学経営学部 2013年卒業
勤務先：外資系事業会社

2016年9月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：75点（2016年2月／1回目）、BEC：78点（2016年8月／1回目）
REG：80点（2015年11月／2回目）、AUD：75点（2016年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

英語プラス“a”のスキルを体得するため。

りかかるといふ勉強方法に変えました。結果的に、Beckerの過去問を一通り解くことで、各科目の全体像を把握できるので、勉強の計画もたてやすくモチベーションのコントロールもしやすかったです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級レベル
英語知識：TOEIC®TEST 905点

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

現在、財務関連の仕事をしているため、新しい業務を任せられる際の理解度が断然早くなっていると実感しています。今後もUSCPAの知識をベースにより挑戦的な仕事で活かしていきたいと考えています。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

友人が他の資格取得のため、TACに通っていたため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講義や教材の全てが詳しく用意されていたので、内容の理解に苦しむ事はあまり無かったと思います。他社の教材を使用している知り合いがいたが、内容があまり詳細に記載されていないので理解にネット等で調べながら勉強していました。そういう意味では、他の情報媒体に頼らなくても、TACの教材で全て事足りていました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

まずは、1科目合格することで、他3教科の勉強方法や計画がたてやすくなると同時に、「頑張れば合格できるんだ」という気持ちが持てるので、他3教科のモチベーションの維持にもつながると思います。なので、まずは1科目合格から頑張ってください！

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

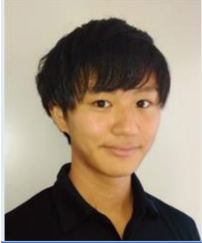
DVD通信、約1年半です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

DVD講義を視聴した後、各科目Beckerに収録されている過去問を3～5周解いて試験に挑みました。個人的に、過去問を解けば解く程、合格に近づける試験だと思うので、粘り強く過去問を解かれることをおすすめします。また、過去問を解きながら、9割程度理解できている問題は、2回目からは解かずに、理解度が低いところのみ重複して解きました。また、間違えたところや暗記できていないところは、MS Excelにメモしていきました。テスト前はExcelのメモだけ頭に入れることを重点的に行いました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初、USCPAの勉強を始めたときは、DVD講義を極めて100%に近い状態になるまで理解してから、過去問に取りかかるといふプロセスを踏んでいました。しかし、USCPAは範囲が非常に広いため、完璧な理解をしてから次に進むという勉強の仕方だと、なかなかゴールへ近づけずに、途中でモチベーションが下がってしまうことが幾度もありました。そこで途中からDVD講義の理解度を5、6割ですぐに過去問に取



学生だからこそ、目指してみよう！

安彦 鷹哉 アビコ タカヤ さん

1994年生まれ
明治大学商学部商学科 在学中
2017年3月卒業予定
勤務先：USCPA合格後大手監査法人に内定

2016年7月 USCPA試験合格（モンタナ州）
FAR：75点（2016年1月／2回目）、BEC：76点（2015年11月／1回目）
REG：75点（2016年7月／3回目）、AUD：76点（2016年7月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

世界で働いてみたいという漠然とした思いと、大学生という時間をかけて何かに挑戦したいという思いが合わさった結果、USCPAへのチャレンジを決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記1級受講済み
英語知識：特になし

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

当時大学で開講していた日商簿記1級講座を受講していた友人の多くがTACの公認会計士講座を受講しており、資格は違えども同じ専門学校で勉強しようと思ったからです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方は試験に受かるためのポイントを熟知されているので、安心して講義を受けることが出来ました。TACのオリジナルテキストは洗練されていて分かりやすく、なおかつBeckerで本番さながらの問題演習が出来ることも大きな魅力であると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

結果的に申し込んでから合格するまで3年半かかっています。途中で約1年間の長期留学を挟んでおり、本腰入れて勉強に取り組んだのは帰国後の約1年間で。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全体的
基本の流れは授業を聞く→問題集を解く、これを繰り返しました。受験直前期はひたすら問題演習を行いました。

FAR「TAC問題集のみ」

とにかく範囲が広いので、問題を繰り返し解くことで頭に入れていきました。それぞれの取引の仕訳を意識して勉強することが重要な科目だと思います。私の場合すぐに忘れてしまう仕訳などはノートに書き出して暗記していました。NPAなどは覚えてしまえば点数がとりやすい分野ですので、試験当日に知識レベルを最大にすることで乗り切れると思います。

BEC「TAC問題集+Becker紙ベース」

大学で経済学を既に学んでいましたのでECOは対応できましたが、CGとITの分野には苦勞しました。しかしメインは管理会計の分野ですので、そこを重点的に押さえ、残りは広く浅くを心がけました。TACの問題集だけでは演習不足を感じましたので、BECはBeckerも併用しひたすら問題を解きました。

REG「TAC問題集+AICPAリリース問題」

税法が一番取り掛かり難い科目でした。この科目に関しては、知識が不十分でもいいので早い段階から問題演習をすることをお勧め

します。問題を解いてから解説、教科書を読むことで少しずつ理解が出来てくる科目だと思います。またBLの分野は範囲が広く罅が明かれないと感じたので、杉浦講師がAランクとおっしゃったところをノートにまとめ、そこに絞って勉強していました。本番でも多くがAランク論点からの出題だったと感じています。

AUD「TAC問題集+AICPAリリース問題+Becker紙ベース」

私が一番苦勞した科目です。計算問題がほとんどないので一見簡単に見えますが、勉強すればするほどドツポにはまりました。勉強のコツとしては、問題演習をする際に他の選択肢がなぜ間違いになるかを考えながら解くことだと思います。計算問題と違って答えが数字にならない分、知識をしっかりと身につけないと正解までたどり着きにくくなります。苦手とされる方が多い科目ですが、最初の段階で勉強法を間違えなければそこまで脅威となる科目ではないと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続で大きなトラブルになったことはありませんでした。細々したものはその都度TACに問い合わせ確認をしていました。本番は全て御茶ノ水にあるプロメトリックテストセンターで受けましたが各Windowの初めと最後はすぐ予約で埋まってしまいますので、早め早めに受験日を決めてしまうことをお勧めします。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

U.S.CPA合格後の大学4年夏に就職活動をはじめ、すぐに大手監査法人から内定をいただきました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

学生の方へのアドバイスとして書かせて頂きます。学生は時間に余裕があるから試験に対し楽に臨めると思われていますが、それは半分正解で半分間違いです。確かに学生の時期は比較的自由に自分でスケジュールを立てることが出来ますので、やる気さえあればいくらでも勉強時間を確保できます。しかし一方で、自分で自分を律して勉強に取り組まなければなりません。私の場合、本腰入れて勉強した1年間は大学でのサークル活動や友人との飲み会を自粛して図書館にこもって勉強をしました。これは非常に辛いです。周りが楽しく過ごしているのを横目に、歯を食いしばって勉強しなければならない時期が必ず訪れます。私は、努力が足らずあと1点2点での不合格を幾度となく経験し、何度もくじけそうになりました。しかし諦めない気持ちさえあれば最後は良い結果が待っています。多くの学生がこの試験に挑戦し、合格をもち取ることを願っています。



自分を信じてやり抜く！

桑島 さやか さん

一橋大学卒業
前職は通信サービスの会社。夫のアメリカ駐在に伴うため退職。

2016年10月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：85点（2015年10月／1回目）、BEC：79点（2015年11月／1回目）
REG：88点（2016年5月／1回目）、AUD：92点（2016年10月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

夫のアメリカ駐在に伴い退職しました。渡米後は子育てや初めての海外生活が楽しく充実した日々を送っていましたが、一方で帰国後の自分の姿を考えると不安が募ることもありました。復職をしたいと思う日が来たときに備え、在職中にも興味があった米国公認会計士の情報を収集しました。会計単位も知識もなかったため、ハードルが高いと思いましたが、アメリカに来たのはチャンスだと信じて決断しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語知識：TOEIC®TEST 800点程度
会計知識は殆どありませんでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

大学時代に公認会計士を目指していた友人の多くが、TACに通い合格していたこと。
アメリカでも単位認定試験が受けられること。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

会計知識のない私でも、大変分かりやすい授業でした。試験範囲の変更についても随時対応してくださっていることで、信頼して勉強することができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVDです。DVD視聴時間＋各科目150時間位（3時間×50日）

最初にFARとBECを学習して単位認定試験を受けました。2科目の本試験を受けた後、REGの勉強を開始し、REGの受験後に、AUDの勉強を開始しました。できるだけ1科目の勉強に集中できるようなスケジュールを組みました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

講義を視聴する毎にTACの問題集を解くように心がけました。分からない時はあまり悩まず解答やテキストを読み、問題を解きながら理解を深める方法をとりました。間違った問題は○、正答したけど曖昧な問題は△をつけ、さらに頻出問題があればコメントを書くなど、2周目以降の勉強量を省力できるよう工夫しました。

各科目の最終講義まで視聴したら問題集の2周目を行いました。ここまで終えた時点でほぼ理解できた場合は、Beckerに移りました。MC（四択問題）は紙ベースで1周、オンラ

インソフトで1周、ソフトで間違った問題については2周目も行いました。Beckerは同じような問題も多いのですが、それにより頻出問題を実感することができました。苦手意識があったSIM（Simulation問題）は理解できるまで丁寧に取り組みました。Beckerや直前対策の問題を3周は回しました。

MCに関して、Beckerのソフトは、偶然の正解でも、正解ととられてしまい、復習しにくくなってしまいますので、ほぼ学習内容が理解できていると自信を持ってから取り組むようにしました。傾向をつかむため、AICPAのリリース問題は直近6年分を解きました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACのHPに掲載されている案内は、とても分かりやすく、スムーズに手続きができました。本試験の受験日を変更した際も問題なく行えました。

ただ、受験日の変更は1ヶ月前まで費用がかからないので、もっと早くに予約するべきでした。お茶の水の会場で受験しましたが、平日より土日が空いていて良かったです。特に日曜日は電車も空いているので、おすすめです。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

この資格は、お仕事をしながら目指される方が多いと思います。私の場合は主婦業との両立で、子どもが学校へ行っている間と就寝後だけと決めて勉強しました。細切れではありませんでしたが時間が十分に取れないからこそ、集中して励むことが出来たように思います。

自分に合った勉強方法を見つけて、できるだけ短期決戦にすることが合格の秘訣かと思います。



努力をした分、報われる試験だと思えます

Y.K さん

国内MBAホルダー

2016年9月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：94点（2015年8月／1回目）、BEC：82点（2016年1月／1回目）

REG：85点（2016年9月／1回目）、AUD：80点（2016年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと外資系企業で会計関連の仕事をしていた経験があり、今後も職業会計人として働く上では何らかの資格が必要だと感じていました。また日本の公認会計士試験より米国の試験のほうが自分には挑戦しやすいと考えました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験科目合格

英語知識：TOEIC®TEST 900点台

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

サポート体制が良さそうだったのと、上場企業の安心感からTACを選びました。Beckerのオンラインアクセス権がついているのも決め手のひとつでした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

思っていたとおりサポート体制もすばらしく、講義内容のみでなく、試験の手続きの質問に関しても迅速にご回答いただきありがたかったです。学習中には、教材やカリキュラムの裏にある講師の方々への情熱や努力を感じる事が多く、精神的にも助けられていました。TACの講師・スタッフの方々には感謝しています。また、TACのサイトの合格体験記もよく参考にしていました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Web通信で学習しました。講義は速度を上げて受講しました。学習時間はブラッドリー大学の単位取得とあわせ、延べ1500時間程度でした。その間、企業には勤めておらず、家事等と並行して学習しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

仕事をしながら勉強している方々に比べ、時間に融通をつけやすいので有利だったと思いますが、その代わり全科目一回ずつの受験で合格という自分なりの目標で臨みました。FAR→BEC→AUD→REGの順に受験しました。どの科目も、TACの講義視聴→ノートまとめ→TACの問題集→Beckerのオンライン問題（Beckerのテキストもこの段階で利用）→AICPA過去問の順番で学習しました。TACとBeckerの両方の教材を利用することで、知識を縦横で整頓することができたと思います。オプションで購入したBeckerのフラッシュカードも移動時間に利用しました。先生方も仰っていたことです

が、テスト直前期の全体見直しはとても効果が高いと思います。その際は、自分で作ったノートや科目によってはTACから送られてくる直前対策レジュメが役に立ちました。

<FAR>

範囲が広く、一番時間をかけた科目です。最初の科目だったので自分自身の加減もよくわかっておらず、終わってみると時間をかけすぎた感がありますが、一科目を無事合格することで、その後だいぶ気が楽になりました。

<BEC>

いろいろな分野が混ざっており、勉強していて一番楽しかった科目です。一方でWCは勉強しにくく、自分は例題を丸暗記するところから始めましたが、短期セミナー等があれば参加したほうが効率がよいと感じました。

<AUD>

興味のある分野で苦手意識はなかったのですが、4科目の中で勉強時間数が最少だったからか結果的には一番点数が伸びなかった科目となりました。

<REG>

TAXのまとめレジュメが教材についており、これが役に立ちました。最後の科目だったので、最初の科目の期限切れと再受験に対する恐れが、この科目の学習のモチベーションアップにつながりました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

アメリカ大使館まで赴いたり、受験手続にも手間がかかりました。また、天気予報で試験の開始時間と台風到来予定時刻が重なったことがあり、テストセンターの近くに前泊までしましたが、結局当日は快晴だったのは今となっては良い思い出です。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

再就職活動時、社会人としてはブランクがあるので不安でしたが、試験に合格していることで書類選考などにも通していただきやすかったと思います。自分自身の自信にもつながり、理想に近い仕事を希望することが手に届かないことではないと認識できました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

当初考えていたよりも大変な試験でした。しかし4科目済んでみると私の場合は学習時間数と点数が比例していることから、努力をした分だけ報われる試験でもあると感じました。これから受験される皆様の合格を祈念しております。